

第3編

地域別施策

埼玉県には、首都に隣接し人口増加が続く地域や、郊外に市街地が点在し都市と田園が共存している地域、そして豊かな自然に包まれた魅力的な環境にありつつも人口減少や高齢化が進んでいる地域もあります。

これが日本の縮図とも呼ばれる本県の姿であり、地域の多彩さが本県の活力を生み出していると言えます。

今後、人口減少、異次元の高齢化が進む中、地域の人口動態をはじめとする社会経済の動向を踏まえた施策展開を行うことで、本計画に掲げる2040年を見据えた将来像や分野別の各施策をより一層効果的に実現していくことが可能になります。

また、各地域の市町村などと連携し、産業、自然、文化など特徴的な資源や環境を生かし、創意工夫して個性豊かで多彩な地域づくりに取り組むことが重要です。

このため、各地域の特性や現状を踏まえ、地域ごとに異なる課題に対して「第2編 全体計画」の分野別施策に示した取組を再編し、「地域づくりの方向性」や「主な取組」として示します。

1 地域区分の考え方

(1) 県南・圏央道・県北ゾーン

本県では、都心からの距離に応じて都市化の進展や社会経済の状況が異なる傾向があります。このため、県域を都心からのおおむねの距離に基づき大きく県南・圏央道・県北の3つのゾーンに区分し、特性や課題を整理しました。

① 県南ゾーン（都心からおおむね10～30km圏）

東京の影響を受けやすく、早くから都市化が進行した地域

② 圏央道ゾーン（都心からおおむね30～60km圏）

都市と田園が共存しており、圏央道の整備により一層の発展が期待されている地域

③ 県北ゾーン（都心からおおむね60km以遠）

潤いのある豊かな自然環境や歴史・伝統などの特徴的な地域資源が多く残されている地域

(2) 10地域区分

地域の特性と課題を踏まえながら、市町村などと連携した地域づくりを推進するための単位として、県民の生活圏としての一体性など広域的なまとまりに基づき、主に次の観点から10の地域に区分しました。

① 日常生活圏のまとまり

地域を単位として、施策を円滑にまとまりのある形で推進するためには、県民の生活圏としての一体性があることが大切です。このため、通勤・通学や通院といった生活圏としての一体性がある市町村を同じ地域に区分しました。

② 鉄道・道路の交通軸

経済活動などは鉄道・道路などに沿って活発化し、また鉄道沿線などは県民の持つ地域の一体感にも影響するため、交通軸に配慮した地域区分としました。

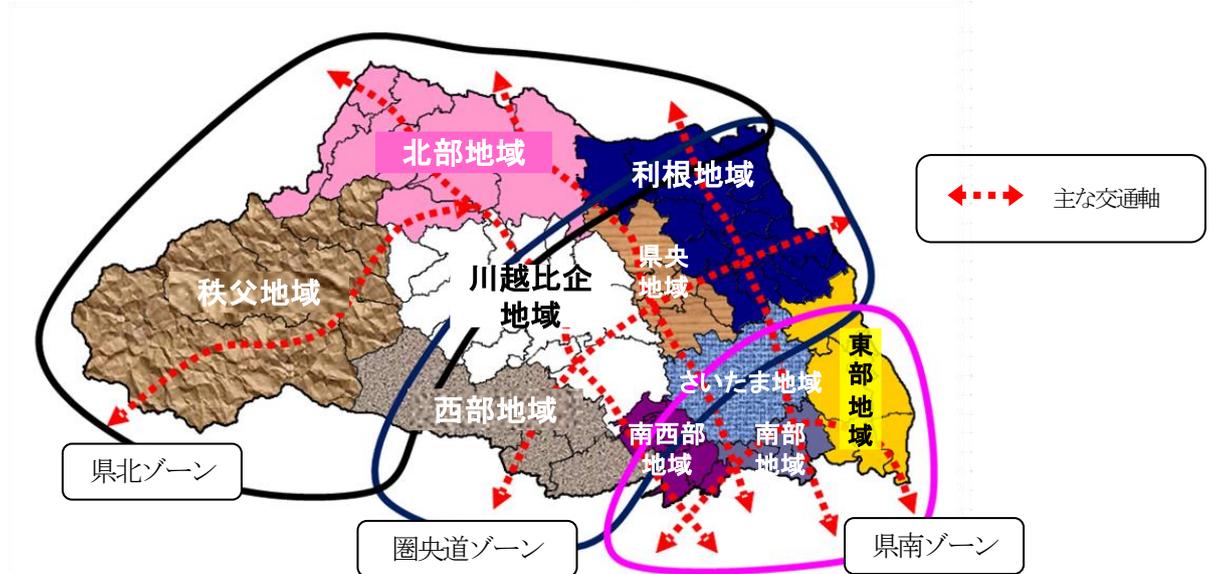
なお、本県は都心から放射状に延びる鉄道・道路に沿って発展してきたため、既存の人の流れは都心からの放射方向が大きくなっています。圏央道などの横方向の交通軸については3つのゾーン区分において考慮しています。

③ 行政機関のまとまり

行政施策の推進やこれまでの地域づくりの成果を継承するため、地域機関などの所管区域や市町村の広域連携の状況などを踏まえた地域区分としています。

10地域の現状や課題を踏まえ、分野別施策に掲げる全県的に展開される取組のうち、特にその地域で取り組むべきものを整理しました。

3ゾーンと10地域区分



10地域区分の構成市町村

地域区分		構成市町村
3ゾーン	10地域	
県南ゾーン	南部	川口市、蕨市、戸田市
	南西部	朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町
	東部	春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町
	さいたま	さいたま市
圏央道ゾーン	県央	鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町
	川越比企	川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、東秩父村
	西部	所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市
	利根	行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町
県北ゾーン	北部	熊谷市、本庄市、深谷市、美里町、神川町、上里町、寄居町
	秩父	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町

2 3ゾーンの特性と課題

(1) 県南ゾーンの特性と課題

都心からおおむね10～30km圏の範囲内にあり、10地域のうち南部、南西部、東部、さいたまの4地域が位置しています。

県南ゾーンには本県の総人口の半数以上が居住しています。都内への通勤・通学の交通利便性が高く、東京都、千葉県、神奈川県からの転入者数も多くなっています。特に20代から30代の若年世代でその傾向が顕著であり、借家の割合が高いことも特徴です。また、本県の出生数の6割以上、待機児童数の75%以上をこのゾーンが占めています。

人口は依然として増加傾向ですが、推計では令和7年（2025年）を境に減少に転じると見込まれています。また、令和22年（2040年）には、県内の高齢者・後期高齢者ともにその半数以上がこのゾーンに居住することが予想されています。

このゾーンは、若い世代が子育てしやすいまちづくり、急増する高齢者が暮らしやすいまちづくりが求められます。そのためには、待機児童対策や保育サービスの充実など子育て支援策の強化や、高齢者の活躍の推進、健康づくりの取組、包括的な医療・介護体制の構築が期待されます。

また、このゾーンは人口密度が高く、大規模な地震や水害に対する備えが必要です。

(2) 圏央道ゾーンの特性と課題

都心からおおむね30～60km圏の範囲内にあり、県央、川越比企、西部、利根の4地域が位置しています。

圏央道ゾーンには本県の総人口の4割弱が居住しています。1980年代後半から1990年代に人口が大きく増加しましたが、近年では減少傾向にあります。直近の人口移動状況を見ると全体では転出超過となっており、年代別の内訳をみると14歳未満の子供の転入超過数と20代の転出超過数が3ゾーンの中で最も多くなっています。また、一時期人口が急増したこともあり、令和2年（2020年）から令和12年（2030年）の10年間の後期高齢者増加率は3ゾーンの中で最も高くなっています。その後、令和22年（2040年）にかけて人口全体が減少していく中で高齢者数も徐々に減少していきますが、高齢化率は上昇を続ける見込みです。

このゾーンでは、東西に延びる圏央道に加え南北を結ぶ上尾道路の整備も進んでおり、交通利便性が向上することで企業立地における優位性が更に高まることが期待されます。また、テレワーク*のような新しい働き方が急速に普及する中で、このゾーンが持つ都市と田園が共存した魅力的な住環境を生かし、若者や子育て世代の定住を図ることで地域の活力を高めることが求められます。立地企業による雇用の創出などを通じて若者世代の転出を抑えるとともに、急増する高齢者が暮らしやすいまちづくりを進めることも重要です。

このほか、令和元年東日本台風を教訓として、水害などの自然災害に対する備えが必要です。

(3) 県北ゾーンの特性と課題

都心からおおむね60km以遠にあり、北部、秩父の2地域が位置しています。

県北ゾーンには本県の総人口の1割弱が居住しています。平成12年(2000年)頃に人口のピークを迎え、その後は徐々に減少しています。15歳から34歳までの若い世代が転出超過となっており、とりわけ進学や就職の時期を迎えた20代の転出超過数が大変多くなっています。出生数も毎年減少傾向にあり、3ゾーンの中で最も減少率が高くなっています。

県内で最も高齢化が進んでいる地域であり、県北ゾーンの全人口に占める後期高齢者人口の割合は、令和2年(2020年)の15%程度から令和22年(2040年)には20%を超えると見込まれています。

高齢化が進む中、コミュニティ全体で高齢者の日常生活を支える仕組みを充実していくとともに、コミュニティバス*やデマンド交通*などにより生活の足を確保することも重要です。

また、このゾーンの活力を高めるためには、主要道路の沿線を中心に企業立地や産業振興を図るとともに、新しい働き方の普及を見据えて、豊かな自然と調和した住環境など地域の魅力を県内外に発信していくことが重要です。

このゾーンは、歴史上の偉人のゆかりの地であることや、各地で伝統的な祭りが開催されるなど、観光地としてのポテンシャルが高い地域です。この貴重な地域資源を生かして観光客などの交流人口や関係人口*を拡大し、地域を活性化することが期待されます。

このほか、大雪や土砂災害など、このゾーン特有の災害に対する備えが必要です。

3 10地域区分

南部地域 (川口市、蕨市、戸田市)

地域の概要

都心から10～20km圏、荒川を挟んで東京都と接する県の南端にあり、地域の大半を占める荒川低地に市街地が広がっています。

江戸時代には、川口や蕨は日光御成道や中山道の宿場町として栄え、また、荒川に面する戸田には「戸田の渡船場」が設けられ交通の要衝として発展しました。荒川や芝川から良質の粘土や砂が採取されたことから、鍋・釜などを中心とした鑄物産業が盛んになったほか、植木の産地としても有名になるなど多様な産業が発達しました。

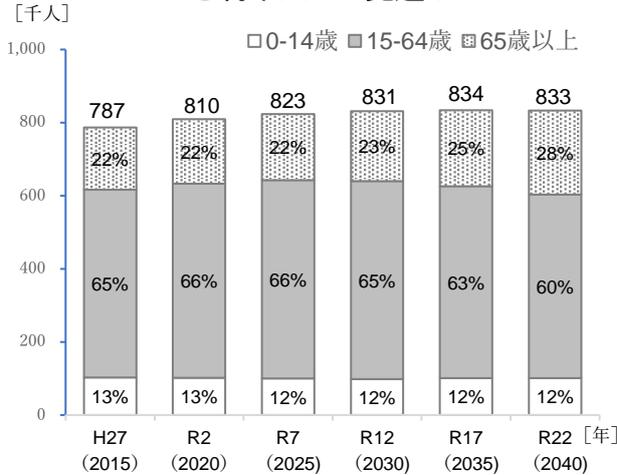
明治以降、鑄物産業に端を発した機械・金属製造業が増加するとともに、現在ではこのほかにも印刷、食品製造業、物流などの事業所が立地しています。

地域内をJR京浜東北線・武蔵野線・埼京線、埼玉高速鉄道線が走り、首都高速道路(首都高)、東北道、外環道、国道17号・122号・298号が広域的な交通網を形成しています。

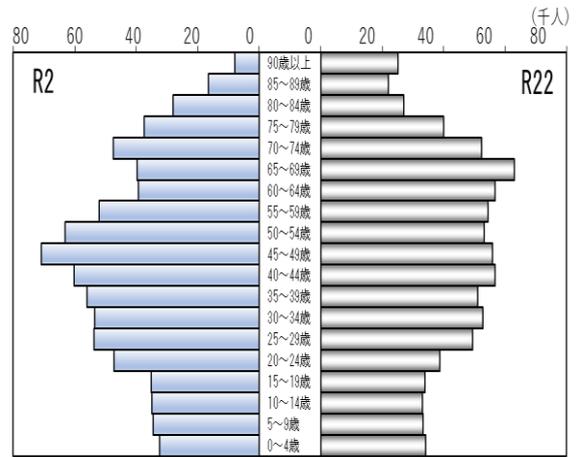
マンションや大型商業施設が多く立地するなど都市化が進んでいる一方で、荒川や芝川などの河川空間、屋敷林や社寺林、植木畑などのゆとりある緑地空間も残っています。

地域の現状と課題

○将来人口の見通し



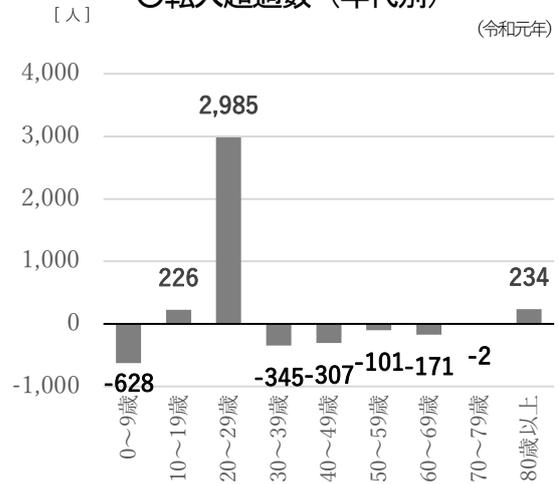
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数(年代別)



この地域は、人口81万人(令和2年(2020年))、県人口の11.0%を占めると推計されており、20代の転入超過数が多いことが特徴です。

低地に密集した市街地が広がっているため、地震や台風などに備えた防災・治水対策を強化することが求められます。

高齢化率(令和2年(2020年))は県内で最も低くなっていますが、令和22年(2040年)までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は2.6ポイント増加し約14%に達する見込みです。

合計特殊出生率(令和元年(2019年))は県内で中位の水準です。20代の転入超過数(令和元年(2019年))はさいたま地域に次いで多く、この世代が結婚後も住み続けられるような地域の魅力づくりが必要です。

近年増加している外国人住民との多文化共生社会づくりや、活気のある水辺空間の創出による快適で美しいまちづくりが期待されています。

機械・金属などの製造業や印刷関連といったものづくりの企業が集積している地域であり、中小企業の経営・技術力の継承・強化、デジタルトランスフォーメーション(DX)*による生産性向上などを支援し、地域経済の活性化を図ることが求められます。

地域づくりの方向性

低地に密集した市街地が広がるこの地域では、首都直下地震や台風などの災害に備え、国道122号及び298号などの道路啓開体制*の強化や芝川などの河川改修を行うとともに、災害時の避難体制の強化などを進め、地域のレジリエンス*を高めます。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築することで、高齢者の地域での安心な暮らしを確保します。

待機児童の解消に向けて保育所などの整備を促進するとともに、子育てしやすい住環境の整備を進めます。

知的障害特別支援学校の児童生徒数は引き続き増加傾向にあるため、過密解消に向けた整備を行います。

セカンドキャリアセンター*とハローワーク川口の連携による高齢者の就業支援を行います。また、セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行うとともに、発達障害者就労支援センター（ジョブセンター川口）で就労を希望する発達障害*者への支援を行います。

埼玉未来大学*において、高齢者が社会で活躍できるよう支援を行います。

プロ・トップスポーツチーム（ソフトボールなど）との連携をはじめとし、子供から高齢者までスポーツに親しめる機会の充実を図ります。

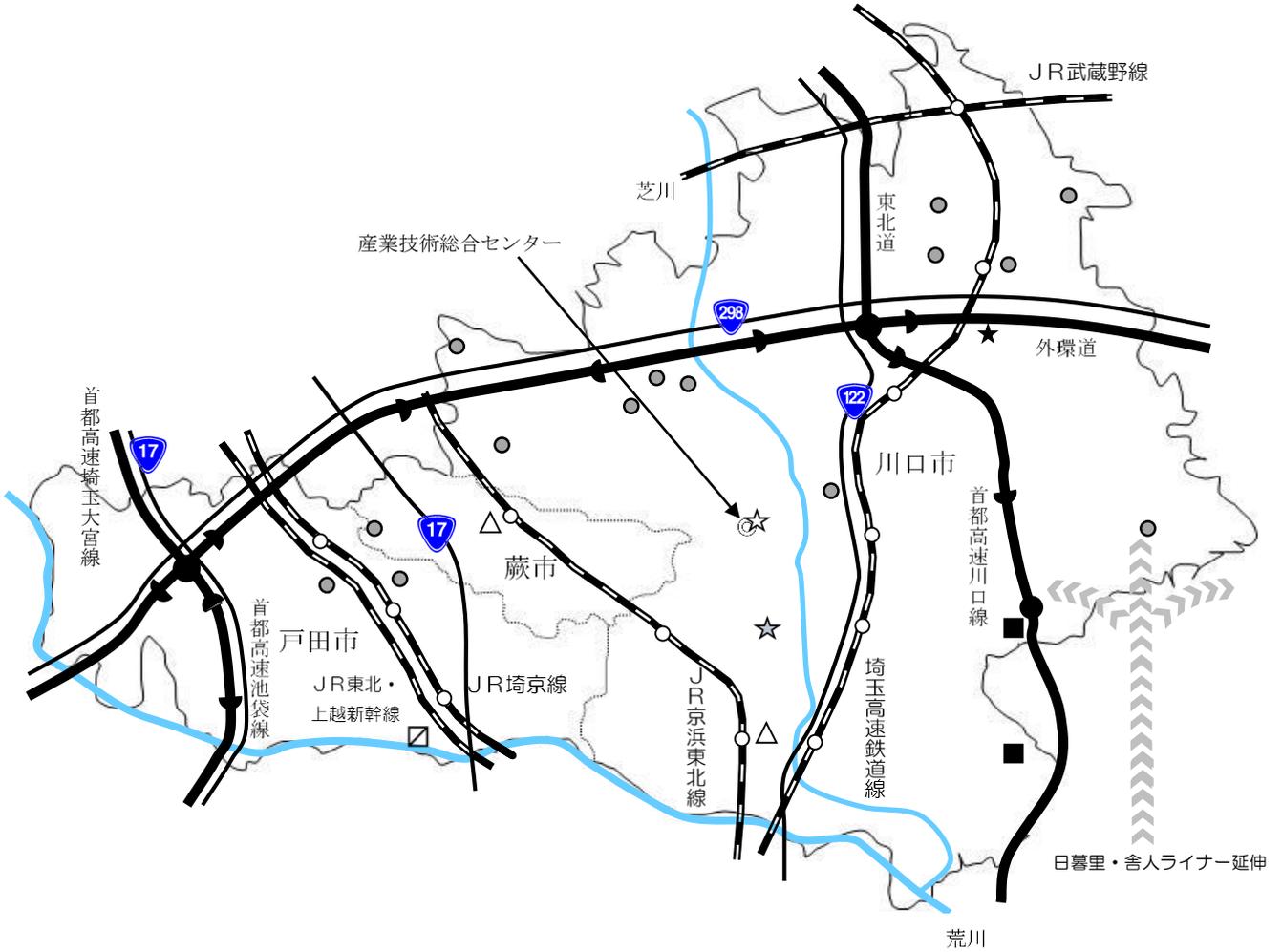
アクセス性を高める道路の整備により、地域の社会基盤としての価値を高めるとともに、大学、研究機関との連携による新技術・新製品の開発支援やベンチャー企業への支援などを通して中小企業の競争力を高め、地域の「稼げる力」を向上します。

また、潤いのある豊かな都市空間の実現に向けて、見沼田圃^{たんぼ}の保全・活用などを進めるとともに、地元自治体や民間事業者など多様な主体と連携した身近な緑地の整備・保全や自然公園の保全を行います。

このほか、花植木など地域の特徴を生かした生産振興を進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況

南部



凡 例	
	自動車専用道路(●,● : JCT又はIC)
	国道
	鉄道(○: 駅)
	交通政策審議会未答申路線
	工業団地
	主な取組に記載された主要施設
	土地区画整理事業施行中地区
	市街地再開発事業施行中地区
	(県)博物館、美術館、水族館、動物園
	(県)図書館、専門校、多目的ホール等
	(県)体験・ふれあい施設
	(県)公園、スポーツ施設等

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 首都直下地震に備えた、国道122号や298号などの道路啓開体制*の強化
- 芝川などの河川改修
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化

県民の暮らしの安心確保

- 信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の推進
- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 子育てしやすい住宅の普及促進

未来を創る子供たちの育成

- 共生社会*を目指した「多様な学びの場*」の充実
- 特に多く在籍している日本語指導が必要な児童生徒への支援

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*とハローワーク川口の連携による高齢者の就業支援
- 埼玉未来大学*による高齢者の社会参加の支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援
- 発達障害者就労支援センター（ジョブセンター川口）による就労支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- 子供から高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の充実
- 多言語による情報提供や相談体制の確保

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- 第3セクター鉄道*（埼玉高速鉄道）の経営安定化の支援
- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の実施と促進

豊かな自然と共生する社会の実現

- 地元自治体や関係団体等と連携した身近な緑地の整備・保全・活用
- 見沼田圃^{たんぼ}の保全・活用・創造
- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 自然公園の保全

稼げる力の向上

- 企業立地などを促進する幹線道路の整備
- 産学官連携や知的財産活用*などによる新技術・新製品の開発支援
- 産業技術総合センターを活用した創業・ベンチャー企業の支援

儲かる農林業の推進

- 花植木など地域の特徴を生かした生産振興の支援

南西部地域

(朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町)

地域の概要

東京都と隣接した県の南端にあり、都心から20～30km圏に位置しています。地域のほとんどが武蔵野台地など台地の上にあります。荒川や新河岸川などの河川が流れ、荒川沿いには低地が広がっています。

和光、朝霞、新座、ふじみ野は川越街道の宿場町として、志木、富士見、ふじみ野は新河岸川の舟運によって栄えました。

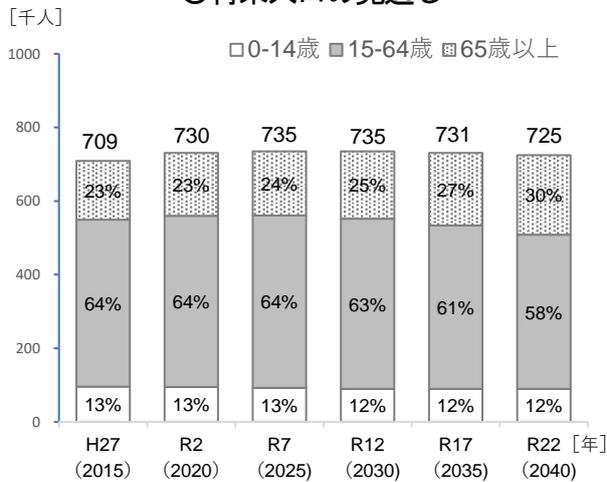
また、かつて野火止台地では水の確保が困難でしたが、江戸時代に野火止用水が開削されてから新田開発が進みました。短冊状の地割が特徴の三富新田^{さんとも}を中心とする三富地域に伝わる「武蔵野の落ち葉堆肥農法」は日本農業遺産に認定されました。

大正以降、鉄道の開通とともに駅を中心に新たな市街地が形成され、高度経済成長期には大規模な住宅団地の建設や宅地化が進み、人口が急増しました。現在も、商業施設や保育施設との複合型集合住宅が開発されているほか、研究機関や大学、国の機関などが多く立地しています。

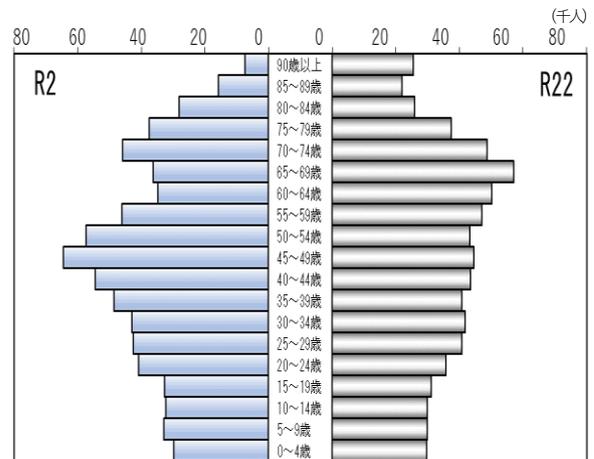
地域内は外環道や関越道、国道254号・463号などにより、広域的な道路網が形成されています。地域の東西南北をJR武蔵野線、東武東上線が結び、平成25年(2013年)には東武東上線と東急東横線、横浜高速鉄道みなとみらい線の東京メトロ副都心線による相互直通運転が開始されました。

地域の現状と課題

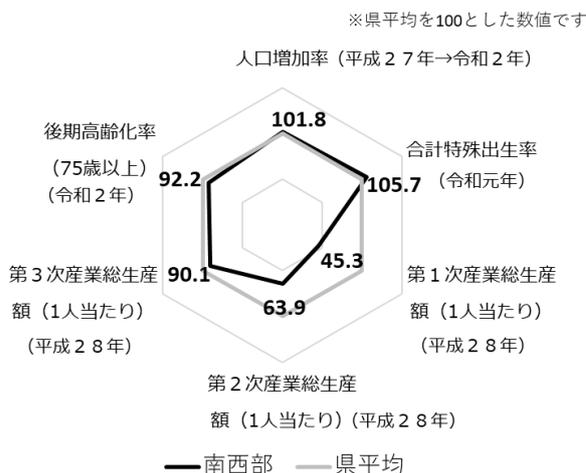
○将来人口の見通し



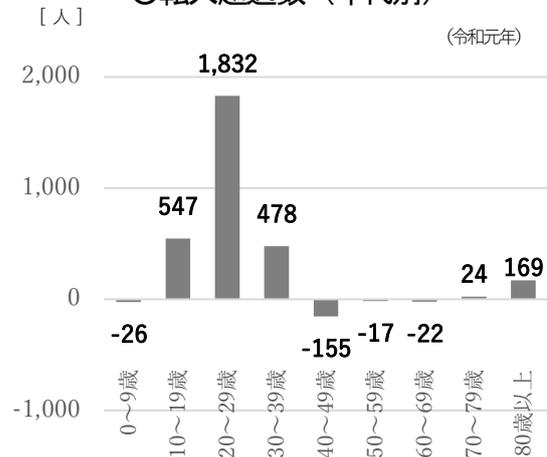
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口73万人（令和2年（2020年））、県人口の9.9%を占めると推計されており、10代から30代の転入超過数が多いことが特徴です。

浸水被害の軽減など、災害に強い安全な都市空間を形成するため、防災・治水対策が求められます。

高齢化率（令和2年（2020年））は県平均より低くなっていますが、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は3.2ポイント増加し約15%に達する見込みです。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内でさいたま地域に次いで高くなっています。子育て世帯の多い30代の転入超過数（令和元年（2019年））も多く、子育て環境の一層の充実が必要です。

東京2020オリンピック・パラリンピック*では射撃競技が開催されることから、レガシー*を生かした地域活性化を図っていくことが期待されています。このほか、米軍基地跡地の活用や幹線道路網の強化などを進めることが求められます。

理化学研究所などの研究機関や大学が立地する利点を生かし、新たな製品・技術の開発や産学官連携による成長産業の育成などを促進し、その効果を県全体に波及していく必要があります。

地域づくりの方向性

首都直下地震や台風などの災害に備え、国道254号及び298号などの道路啓開体制*の強化や新河岸川などの河川改修を行うとともに、災害時の避難体制の強化などを進め、地域のレジリエンス*を高めます。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築することで、高齢者の地域での安心な暮らしを確保します。

待機児童の解消に向けて保育所などの整備を促進するとともに、放課後の安心・安全な居場所づくりや、子育てしやすい住環境の整備を進めます。また、児童相談所及び一時保護所の新設に向けて取り組みます。

地域の特色に応じた高齢者の健康づくりの取組を推進するとともに、セカンドキャリアセンター*とハローワーク朝霞の連携による高齢者の就業支援を行います。また、セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行います。

プロ・トップスポーツチーム（ハンドボールなど）との連携をはじめとし、子供から高齢者までスポーツに親しめる機会の充実を図ります。

東京12号線（大江戸線）延伸に向けた検討やスマートインターチェンジ*（三芳）のフル化などアクセス性を高める道路の整備により、地域の社会基盤としての価値を向上させるとともに、米軍基地跡地については地域の意向に沿った利用がなされるよう支援します。

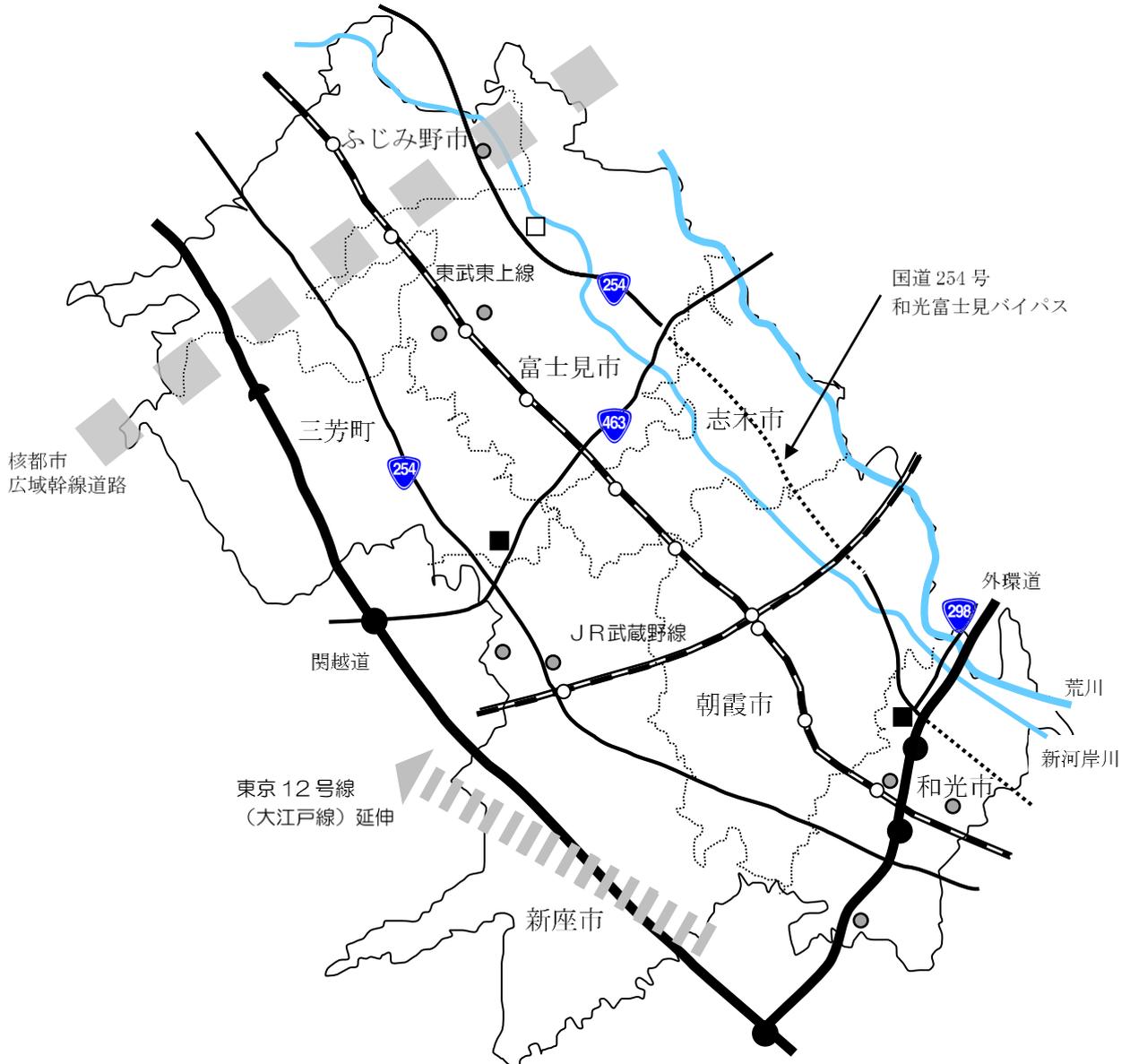
大学、研究機関との連携による新技術・新製品の開発支援やベンチャー企業への支援などを通して中小企業の競争力を高め、地域の「稼げる力」を向上します。

潤いのある豊かな都市空間の実現に向けて、地元自治体や民間事業者など多様な主体と連携した身近な緑地の整備・保全を行います。

このほか、さつまいも、ほうれんそう、にんじんなど地域の特徴を生かした生産振興を進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況

南西部



凡 例	
	自動車専用道路(●, ● : JCT又はIC)
	国道
	国道(事業区間)
	検討中の道路
	鉄道(○: 駅)
	交通政策審議会答申路線
	工業団地
	工業団地(計画・造成中)
	土地区画整理事業施行中地区

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 首都直下地震に備えた、国道254号や298号などの道路啓開体制*の強化
- 新河岸川などの河川改修
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化

県民の暮らしの安心確保

- 信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の構築
- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の充実
- 子育てしやすい住宅の普及促進
- 第8児童相談所（仮称）・一時保護所の新設整備

未来を創る子供たちの育成

- 増加の著しい日本語指導が必要な児童生徒への支援

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*とハローワーク朝霞の連携による高齢者の就業支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- 子供から高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の充実
- 多言語による情報提供や相談体制の確保

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- スマートインターチェンジ*（三芳）のフル化に対する支援
- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- あと数マイルプロジェクト*に基づく鉄道網の延伸検討（東京12号線（大江戸線））
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*の実施と促進
- 米軍基地跡地の有効利用

豊かな自然と共生する社会の実現

- 三富^{さんとめ}地域の平地林の整備・保全・活用
- 地元自治体や関係団体等と連携した身近な緑地の整備・保全・活用

稼げる力の向上

- 企業立地などを促進する幹線道路の整備
- 産学官連携や知的財産活用*などによる新技術・新製品の開発支援
- 理化学研究所との連携によるベンチャー企業の支援

儲かる農林業の推進

- さつまいも、ほうれんそう、にんじんなど地域の特徴を生かした生産振興の支援

東部地域

(春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町)

地域の概要

東京都に隣接し、都心から15～40km圏に位置しています。地域全体に低地が広がり、県境を流れる江戸川をはじめとして、中川、大落古利根川、綾瀬川などの河川や葛西用水などの用水路が縦横に走る豊かな水に恵まれた地域です。

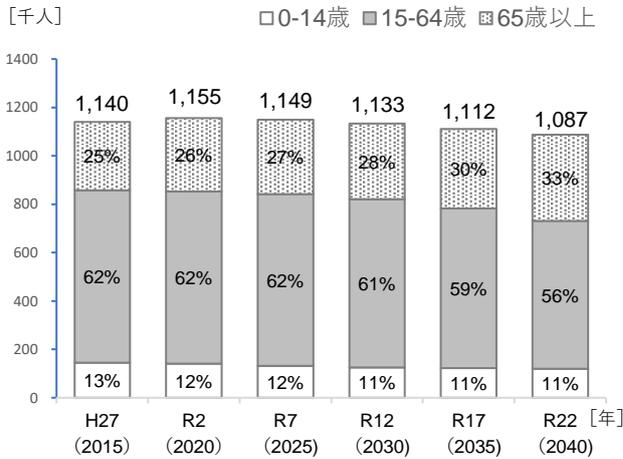
古くから水田が開拓され稲作の盛んな地域であり、中でも三郷や吉川は、二郷半領と呼ばれる早場米の産地として知られていました。草加、越谷、春日部は奥州・日光街道の宿場町としても栄え、中川、綾瀬川などには河岸が置かれて舟運が発達し、米などの集散地として発展しました。また、草加のせんべい、春日部の桐たんす、越谷のだるまなどの特産品の産地でもあります。

明治以降、鉄道の開通とともに新たな市街地が形成され、金属や食料品といった製造業の集積が進みました。都心に近接する利便性から、高度経済成長期には草加松原団地などの大規模団地への入居や宅地の開発も進み人口が急増しました。その後、つくばエクスプレスの開業により交通利便性が更に向上し、大型商業施設の開設、新たな市街地の形成などが相次いでいます。

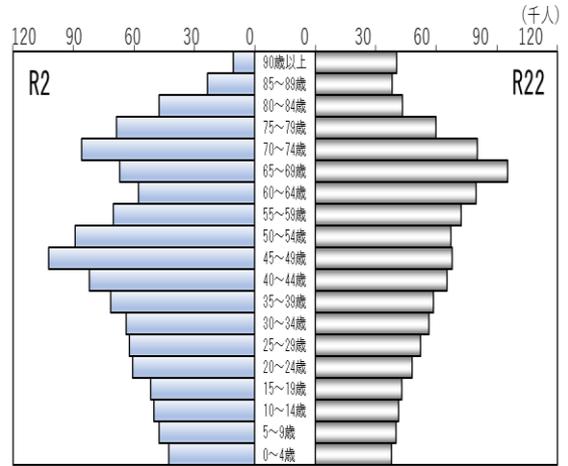
JR武蔵野線、東武伊勢崎線・野田線、つくばエクスプレスが地域の東西南北を結び、平成30年(2018年)に三郷南ICから千葉県方面に開通した外環道や常磐道、首都高速三郷線のほか、国道4号・16号などが広域的な交通網を形成しています。

地域の現状と課題

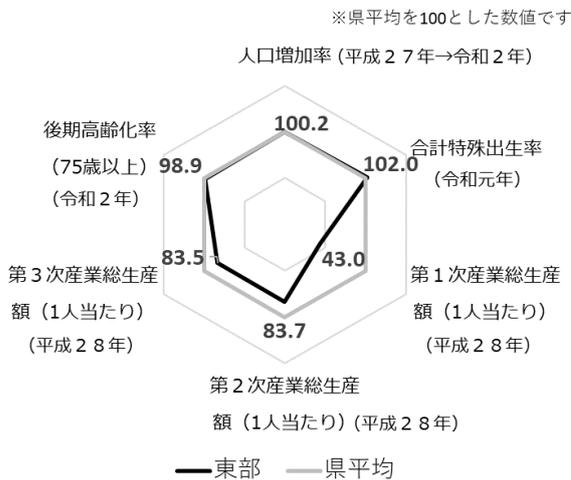
○将来人口の見通し



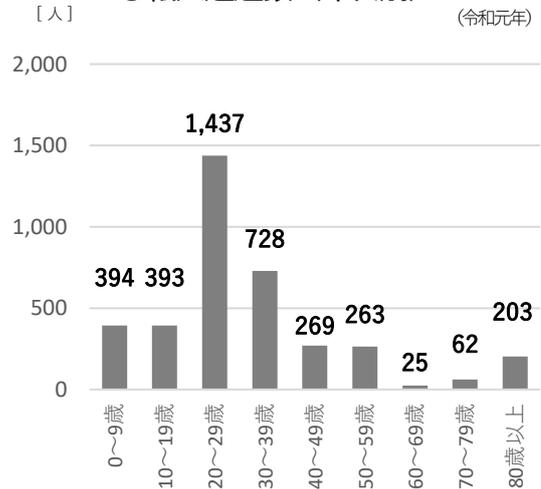
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口115万5千人（令和2年（2020年））、県人口の15.7%を占めると推計されており、20代を中心に全ての世代で転入超過となっています。

低地に市街地が広がっているため、台風などに対する防災・治水対策を強化することが求められます。

高齢化率（令和2年（2020年））は県平均よりわずかに低くなっていますが、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は3.7ポイント増加し約17%に達する見込みです。そのため、在宅医療連携拠点*の機能強化など、高齢者を支える体制の充実が求められます。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内で3番目に高くなっています。子育て世帯の多い30代の転入超過数（令和元年（2019年））もさいたま地域に次いで多く、子育て環境の一層の充実が必要です。

特産農産品や伝統的な名産品、旧日光街道、アニメゆかりの地といった地域資源にも恵まれており、これらを有効活用し地域の魅力を発信していくことが求められます。

東埼玉道路などの幹線道路網の強化、安全で快適な都市空間の形成、水辺空間の利活用や優良な都市景観、大規模商業施設を生かしたにぎわいのあるまちづくりが期待されています。

地域づくりの方向性

首都直下地震や台風などの災害に備え、国道4号及び16号などの道路啓開体制*の強化や新方川^{にいがたがわ}などの河川改修を行うとともに、災害時の避難体制の強化などを進め、地域のレジリエンス*を高めます。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築することで、高齢者の地域での安心な暮らしを確保します。

待機児童の解消に向けて保育所などの整備を促進するとともに、放課後の安心・安全な居場所づくりや、子育てしやすい住環境の整備を進めます。

地域の特色に応じた高齢者の健康づくりの取組を推進するとともに、セカンドキャリアセンター*（春日部・草加）や埼玉未来大学*において、高齢者が社会で活躍できるよう支援を行います。

セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行うとともに、発達障害者就労支援センター（ジョブセンター草加）で就労を希望する発達障害*者への支援を行います。

プロ・トップスポーツチーム（バスケットボールなど）との連携をはじめとし、子供から高齢者までスポーツに親しめる機会の充実を図ります。

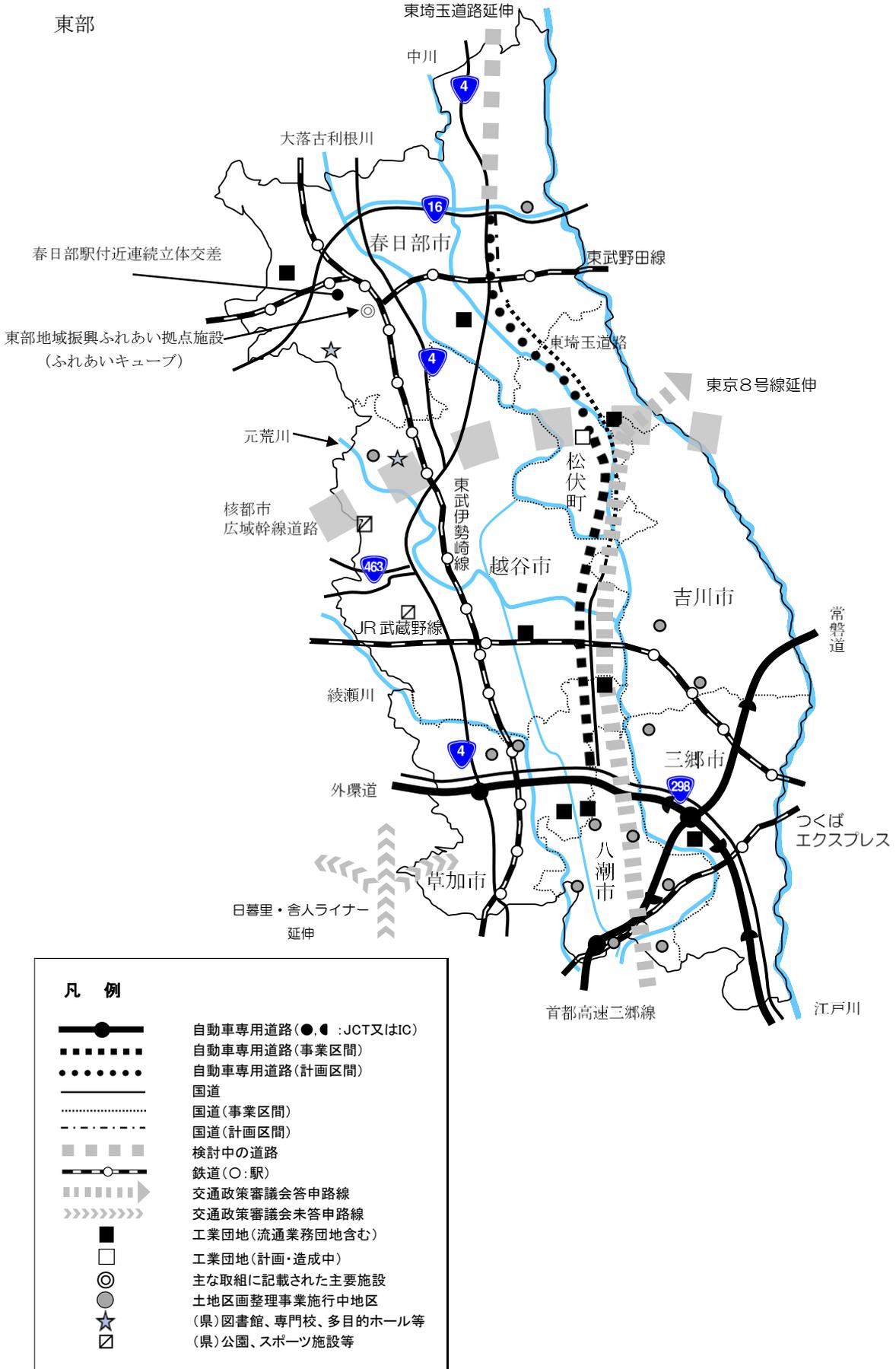
経済活動を支える基盤となる道路網の充実に向け、東埼玉道路の整備やスマートインターチェンジ*（三郷料金所）のフル化などによるアクセス改善を進めるとともに、東京8号線延伸に向けた検討を行い、地域の社会基盤としての価値を高めます。さらに、線路で分断されている市街地の一体化を図る鉄道と道路の立体交差化などを進めます。

また、独創的な技術などにより新たな事業展開を目指すベンチャー企業への支援などを通して中小企業の競争力を高め、地域の「稼げる力」を向上します。

潤いのある豊かな都市空間の実現に向けて、地元自治体や民間事業者など多様な主体と連携した水辺空間の利活用を行います。

このほか、担い手への農地の集積・集約化により生産基盤を強化するとともに、こまつなや日本なしなど地域の特徴を生かした生産振興を進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況



主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 首都直下地震に備えた、国道4号や16号などの道路啓開体制*の強化
- 新方川などの河川改修
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化

県民の暮らしの安心確保

- 信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の構築
- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の充実
- 子育てしやすい住宅の普及促進

未来を創る子供たちの育成

- 日本語指導が必要な児童生徒への支援

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*（春日部・草加）による高齢者の就業支援
- 埼玉未来大学*による高齢者の社会参加の支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援
- 発達障害者就労支援センター（ジョブセンター草加）による就労支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- 旧日光街道やアニメゆかりの地など地域資源を活用した観光振興や、多彩なツーリズムの促進

- 子供から高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の充実
- 多言語による情報提供や相談体制の確保

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- 高速道路をつなぐ地域高規格道路*（東埼玉道路）の整備や鉄道と道路の立体交差化
- 第3セクター鉄道*（首都圏新都市鉄道（つくばエクスプレス））の経営安定化の支援
- スマートインターチェンジ*（三郷料金所）のフル化に対する支援
- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- あと数マイルプロジェクト*に基づく鉄道網の延伸検討（東京8号線）
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*の実施と促進

豊かな自然と共生する社会の実現

- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 地元自治体や民間事業者などと連携した水辺空間の利活用の促進

稼げる力の向上

- 企業立地などを促進する幹線道路の整備
- 東部地域振興ふれあい拠点施設を拠点とした創業・ベンチャー企業の支援

諸かる農林業の推進

- 優良農地の確保と農地中間管理事業*の活用などによる担い手への農地集積・集約化の促進
- こまつなや日本なしなど地域の特徴を生かした生産振興の支援

さいたま地域 (さいたま市)

地域の概要

県の南部、都心から20～30km圏に位置し、関東ローム層が堆積された大宮台地などとの間を流れる河川や低地から形成されています。

江戸時代には氷川神社の門前町、岩槻の城下町、中山道の宿場町として栄え、明治以降は行政・商業が集積する地域として発展しました。平成13年(2001年)に当時の浦和市、大宮市、与野市の合併によりさいたま市が誕生、平成15年(2003年)に県内初の政令指定都市に移行、さらに平成17年(2005年)には当時の岩槻市とも合併しました。

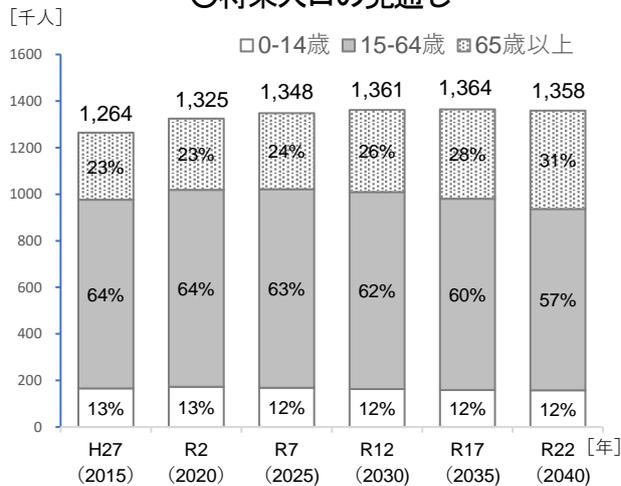
製造業、商業、サービス業の多様な産業が集積しているほか、国の行政機関も立地し、平成28年(2016年)には、さいたま新都心に県立小児医療センターが移転・開院しました。

この地域は、盆栽や人形などの伝統・技術が残り、さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002公園、彩の国さいたま芸術劇場などスポーツ・文化芸術の拠点となる施設も多くあります。また、プロサッカーチームの本拠地があるなどスポーツが盛んです。

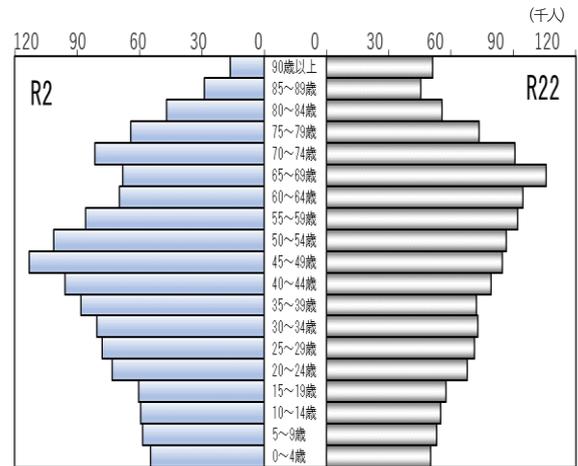
鉄道は、北海道や東北、信越、北陸とつながる新幹線6路線をはじめ、多数のJR在来線、東武野田線、埼玉高速鉄道線、埼玉新都市交通伊奈線(ニューシャトル)が結節する東日本随一の交通の要衝となっています。道路は外環道や東北道、首都高速埼玉大宮線・埼玉新都心線、国道16号・17号・122号・463号などが広域的な道路網を形成し、平成28年(2016年)には国道17号上尾道路(国道16号～圏央道)も開通し南北方向のアクセスが更に向上しました。

地域の現状と課題

○将来人口の見通し



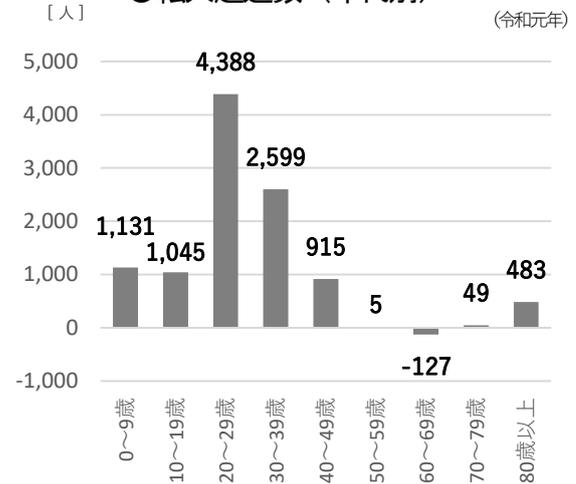
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口132万5千人（令和2年（2020年））、県人口の18.0%を占めると推計されており、40代以下の転入超過が多いことが特徴です。

高齢化率（令和2年（2020年））は南部地域に次いで低くなっていますが、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は4.8ポイント増加し約17%に達する見込みです。また、高齢者人口（令和2年（2020年））は県内で最も多い地域のため、急速な高齢化に対応した在宅医療連携拠点*の機能強化など、高齢者を支える体制の充実が求められます。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内で最も高くなっています。20代、子育て世帯の多い30代の転入超過数（令和元年（2019年））は県内で最も多く、結婚後も住み続けられるような地域の魅力づくりや子育て環境の一層の充実が必要です。

東京2020オリンピックでは地域内の2会場で競技が実施されることから、そのレガシー*を生かして、この地域はもとより県内全体を活性化していくことが求められます。

地域づくりの方向性

人口が非常に多く様々な施設が集中するこの地域では、首都直下地震や台風などの災害に備え、国道16号及び17号などの道路啓開体制*の強化や芝川などの河川改修を行うとともに、災害時の避難体制の強化などを進め、地域のレジリエンス*を高めます。

信号機のバリアフリー化などを推進し、地域の安心な暮らしを確保します。

また、地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築することで、高齢者の地域での安心な暮らしを確保します。

大学附属病院や医学系大学院などの整備に向けた調整・支援を行います。

待機児童の解消に向けて保育所などの整備を促進するとともに、放課後の安心・安全な居場所づくりや、子育てしやすい住環境の整備を進めます。

知的障害特別支援学校の児童生徒数は引き続き増加傾向にあるため、過密解消に向けた整備を行います。

セカンドキャリアセンター*（さいたま）において、高齢者がそれぞれの意欲や希望に合わせて働けるような就業支援を行います。

また、埼玉しごとセンター*において、一人一人の状況に応じた就業支援を行うとともに、女性キャリアセンター*において就業からキャリア形成まで働く女性へのワンストップの支援を行います。

彩の国さいたま芸術劇場やさいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム2002公園など、多彩な文化芸術・スポーツ拠点施設を活用し、県全体の文化芸術・スポーツを振興します。

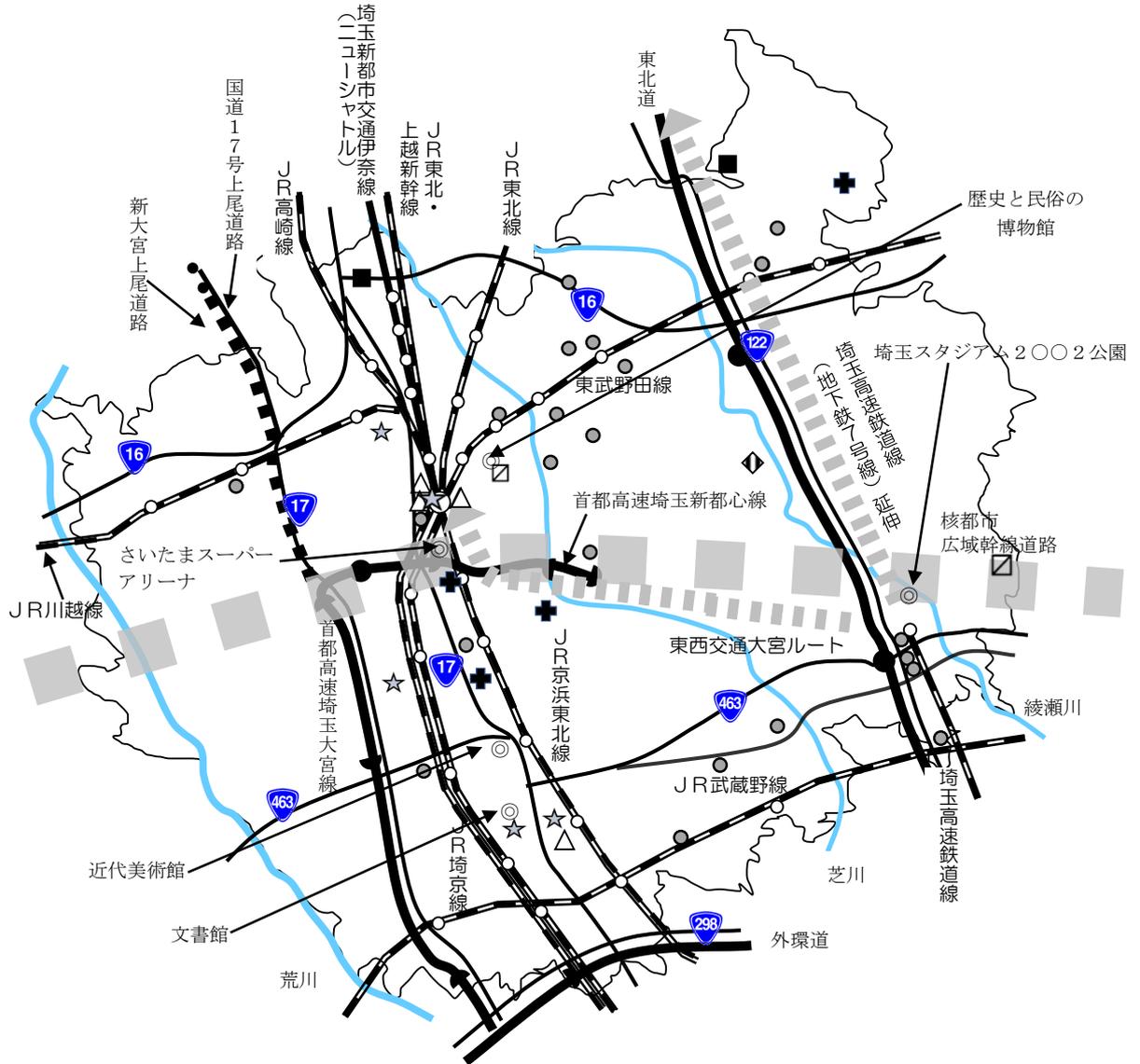
さいたま市と連携して、埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線）延伸に向けた検討を行い、地域の価値を高めるとともに、先端産業支援センター埼玉、創業・ベンチャー支援センター埼玉などの支援により、販路開拓などに取り組む企業を後押しすることで、地域の「稼げる力」を向上します。

潤いのある豊かな都市空間の実現に向けて、見沼田圃^{たんぼ}の保全・活用を行います。また、自然公園の保全を促進するとともに、さいたま市や民間事業者など多様な主体と連携した身近な緑地の整備・保全を行います。

このほか、くわいやこまつななど地域の特徴を生かした生産振興を進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況

さいたま



凡 例	
	自動車専用道路(●,● :JCT又はIC)
	自動車専用道路(事業区間)
	自動車専用道路(計画区間)
	国道
	検討中の道路
	鉄道(○:駅)
	交通政策審議会答申路線
	工業団地
	主な取組に記載された主要施設
	土地区画整理事業施行中地区
	市街地再開発事業施行中地区
	ほ場整備事業施行地区
	(県)図書館、専門校、多目的ホール等
	(県)公園、スポーツ施設等
	(県)医療施設、福祉施設

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 首都直下地震に備えた、国道16号や17号などの道路啓開体制*の強化
- 芝川などの河川改修
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化

県民の暮らしの安心確保

- 信号機のバリアフリー化、信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 高齢者の急増に備えた在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 急速な高齢化に対応した地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援
- 大学附属病院・医学系大学院などの整備支援

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の構築
- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の充実
- 子育てしやすい住宅の普及促進

未来を創る子供たちの育成

- 共生社会*を目指した「多様な学びの場*」の充実
- 日本語指導が必要な児童生徒への支援

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組むさいたま市への支援
- セカンドキャリアセンター*（さいたま）による高齢者の就業支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援（埼玉しごとセンター*）
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援（女性キャリアセンター*）

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002公園などを活用した多彩なツーリズムの促進
- 文化財の保存、活用、情報発信など文化資源を生かした地域振興（歴史と民俗の博物館・近代美術館・文書館）
- 子供から高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の充実
- 東京2020オリンピック・パラリンピック*のレガシー*を生かした公園等の利活用
- 多言語による情報提供や相談体制の確保

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- 高速道路をつなぐ地域高規格道路*（新大宮上尾道路）の整備
- 第3セクター鉄道*（埼玉高速鉄道、埼玉新都市交通）の経営安定化の支援
- あと数マイルプロジェクト*に基づく鉄道網の延伸検討（埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線））
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の実施と促進

豊かな自然と共生する社会の実現

- さいたま市や関係団体等と連携した身近な緑地の整備・保全・活用
- 見沼田圃^{たんぼ}の保全・活用・創造
- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 自然公園の保全

稼げる力の向上

- 産学官連携や知的財産活用*などによる新技術・新製品の開発支援
- 創業・ベンチャー支援センター埼玉によるベンチャー企業の支援

儲かる農林業の推進

- 優良農地の確保と農地中間管理事業*の活用などによる担い手への農地集積・集約化の促進
- 低コストなほ場整備*など効率的な生産を実現する基盤整備
- くわいやこまつななど地域の特徴を生かした生産振興の支援

県央地域

(鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町)

地域の概要

県のほぼ中央部に位置し、都心から35～50km圏にあります。大宮台地上の起伏の少ない平坦な地形で、東側には元荒川や綾瀬川、西側には荒川が流れています。

江戸時代には中山道の宿場町として栄え、荒川の舟運の要衝でもあり、恵まれた水利や肥沃な土地を生かした田園地帯として発展してきました。

桶川の紅花など多くの特産品があり、中でも鴻巣は今に続く日本有数のひな人形の生産地として知られています。

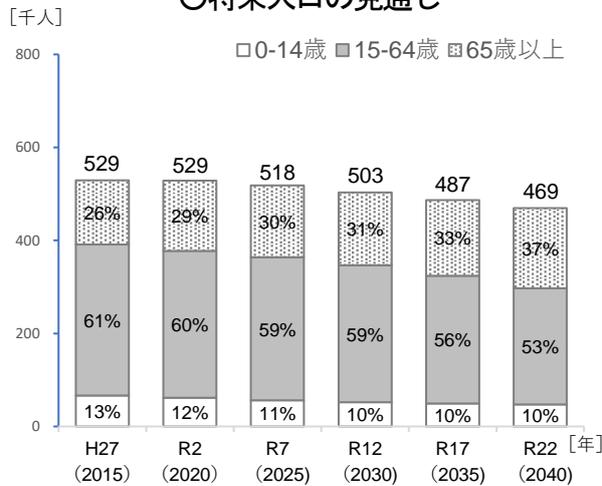
明治以降、鉄道の開通とともに駅を中心に新たな市街地が形成され、製糸工場や機械・金属・食料品などの工場が進出し、製造業を中心とした産業の集積が進みました。また、都市近郊の立地を生かして、花き、果樹の栽培も盛んになりました。

昭和40年代以降は、企業の立地のほか、宅地化が進み人口が急増しました。昭和58年(1983年)に埼玉新都市交通伊奈線(ニューシャトル)が開業し、沿線に新たな市街地が形成されました。また、県立がんセンターや県民活動総合センターなど医療や県民活動の中核施設が整備されました。

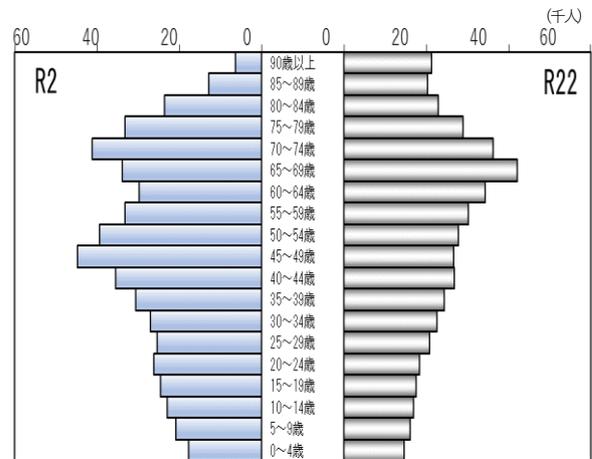
JR高崎線、埼玉新都市交通伊奈線(ニューシャトル)、国道17号上尾道路などによる南北方向、及び圏央道による東西方向の交通網が形成され、利便性が大幅に向上しました。

地域の現状と課題

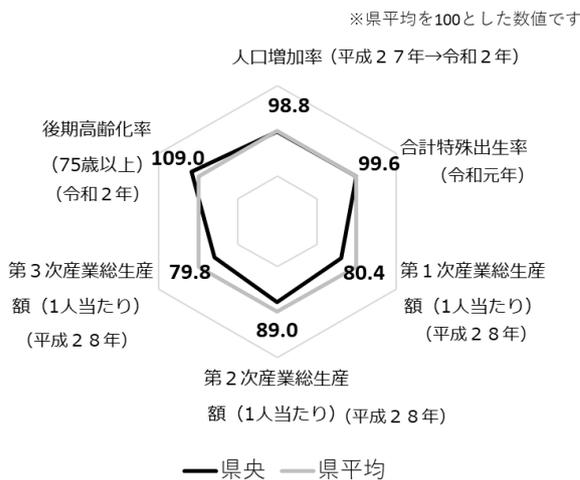
○将来人口の見通し



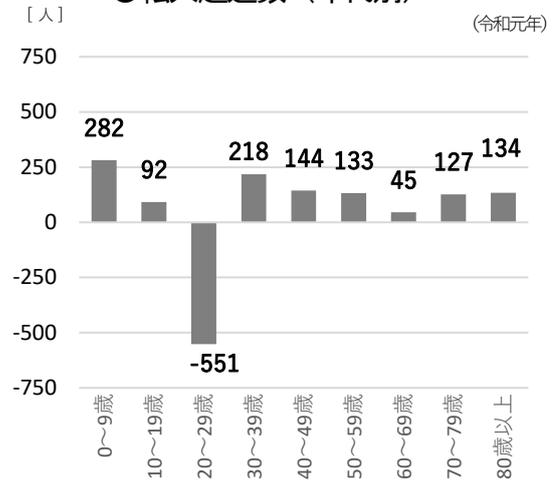
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口52万9千人（令和2年（2020年））、県人口の7.2%を占めると推計されており、20代が転出超過となっています。

高齢化率（令和2年（2020年））は県平均よりも高めであり、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は5.5ポイント増加し約20%に達する見込みです。急速な高齢化に対応するため、高齢者を支える体制の充実が求められます。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内で中位の水準です。20代の転出超過数（令和元年（2019年））が多く、雇用の創出や就業の支援が必要です。

圏央道や国道17号上尾道路の開通により、食品関連の製造業や流通業など産業の集積が進んでいます。こうした交通利便性の向上を生かした企業立地の促進により、地域経済の活力を高めていく必要があります。

地域づくりの方向性

台風や首都直下地震などの災害に備え、原市沼調節池の整備などを行うとともに、国道17号などの道路啓開体制*や災害時の避難体制の強化を進め、地域のレジリエンス*を高めます。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築することで、高齢者の地域での安心な暮らしを確保します。

子育て世代の転入・定着促進を図るため、子育てしやすい住環境の整備を進めます。

知的障害特別支援学校の児童生徒数は引き続き増加傾向にあるため、過密解消に向けた整備を行います。

地域の特色に応じた高齢者の健康づくりの取組を推進するとともに、セカンドキャリアセンター*（伊奈）において、高齢者がそれぞれの意欲や希望に合わせて働けるような就職支援を行います。

県民活動総合センターを活用し、NPOやボランティアなどの活動を支援し地域の課題解決の取組を後押しします。また、埼玉未来大学*において、ボランティアやソーシャルビジネス*の立ち上げを学ぶ場を提供するなど、高齢者が社会で活躍できるよう支援を行います。

また、セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行います。

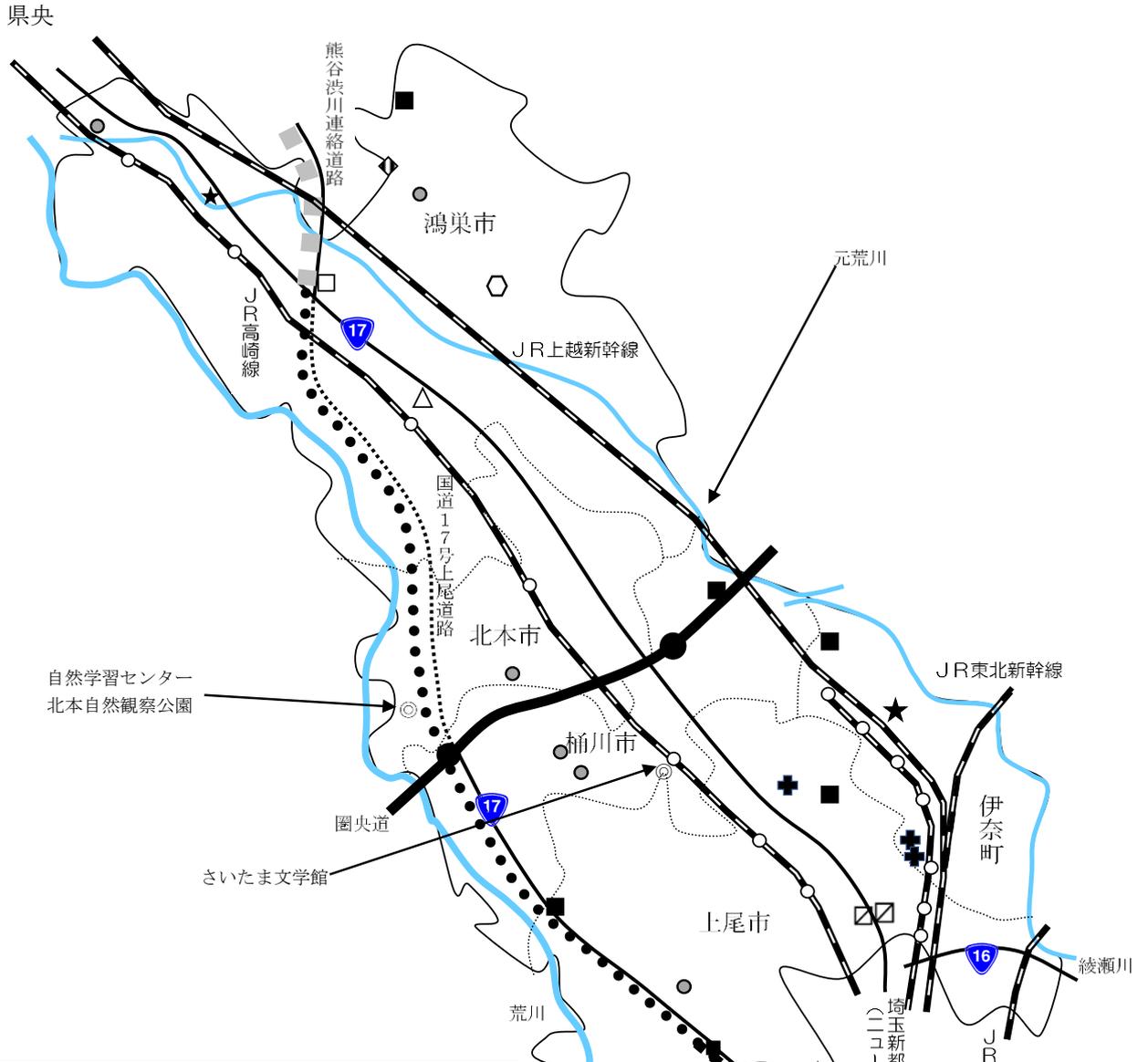
プロ・トップスポーツチーム（バレーボールなど）との連携をはじめとし、子供から高齢者までスポーツに親しめる機会の充実を図ります。

経済活動を支える基盤となる道路網の充実に向け、身近な道路の整備や現道拡幅を行うとともに、企業立地などを促進する幹線道路の整備を進めることで企業誘致を推進し、地域の「稼げる力」を向上します。

また、自然と調和したみどり豊かな住環境の実現に向けて、地元自治体や民間事業者など多様な主体と連携した身近な緑地の整備・保全を行うとともに、自然ふれあい施設（自然学習センター・北本自然観察公園）の利用を促進します。

このほか、担い手への農地の集積・集約化や、低コストなほ場整備*など生産基盤の整備を進めます。また、パンジーやトマトなど地域の特徴を生かした生産振興を更に進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況



凡例	
	自動車専用道路(●, ● : JCT又はIC)
	自動車専用道路(事業区間)
	自動車専用道路(計画区間)
	国道
	国道(事業区間)
	検討中の道路
	鉄道(○: 駅)
	工業団地
	工業団地(計画・造成中)
	主な取組に記載された主要施設
	土地区画整理事業施行中地区
	市街地再開発事業施行中地区
	ほ場整備事業施行地区
	(県)図書館、専門校、多目的ホール等
	(県)体験・ふれあい施設
	(県)公園、スポーツ施設等
	(県)医療施設、福祉施設
	(県)産業支援・研究施設

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 首都直下地震に備えた、国道17号などの道路啓開体制*の強化
- 原市沼調節池などの整備
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化

県民の暮らしの安心確保

- 信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 高齢者の急増に備えた在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 急速な高齢化に対応した地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の構築
- 子育てしやすい住宅の普及促進

未来を創る子供たちの育成

- 共生社会*を目指した「多様な学びの場*」の充実
- 日本語指導が必要な児童生徒への支援

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*（伊奈）による高齢者の就業支援
- 埼玉未来大学*による高齢者の社会参加の支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- 文化財の保存、活用、情報発信など文化資源を生かした地域振興（さいたま文学館）
- 子供から高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の充実
- 多様な主体による地域課題解決の取組の促進

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- 高速道路をつなぐ地域高規格道路*（新大宮上尾道路）の整備
- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- 第3セクター鉄道*（埼玉新都市交通）の経営安定化の支援
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の実施と促進

豊かな自然と共生する社会の実現

- 地元自治体や関係団体等と連携した身近な緑地の整備・保全・活用
- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 自然ふれあい施設（自然学習センター・北本自然観察公園）の利用促進

稼げる力の向上

- 圏央道以北地域などへの企業誘致の推進
- 企業立地などを促進する幹線道路の整備

儲かる農林業の推進

- 優良農地の確保と農地中間管理事業*の活用などによる担い手への農地集積・集約化の促進
- 低コストなほ場整備*など効率的な生産を実現する基盤整備
- パンジーやトマトなど地域の特徴を生かした生産振興の支援

川越比企地域

(川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、東秩父村)

地域の概要

県のほぼ中央部に位置し、都心から30～70km圏にあります。地域の西側は外秩父山地の外縁に属し、岩殿・比企などの丘陵地帯、入間・川越などの台地を経て、東端の荒川低地へと続く起伏に富んだ地形となっています。

城下町である川越は新河岸川の舟運などで江戸と結ばれ、小江戸と称されるほど繁栄しました。東松山、坂戸、嵐山、小川には川越・児玉往還や日光脇往還の宿場町が置かれ、農産物や和紙などの取引が盛んに行われました。現在も残る川越の蔵造りの町並み、越生の梅林、滑川にある国営武蔵丘陵森林公園、小川や東秩父の細川紙など魅力ある地域資源に恵まれています。

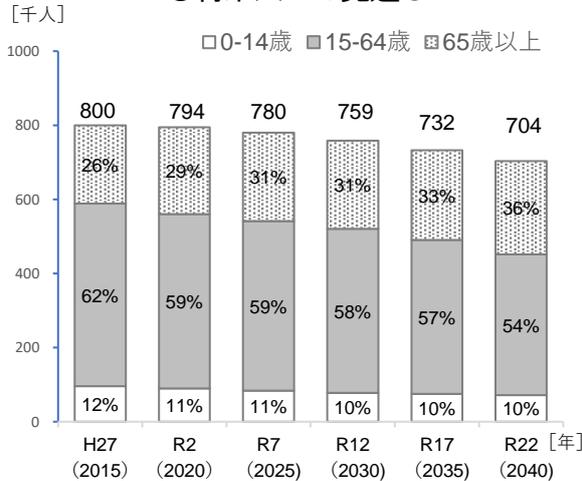
明治以降、川越は本県最大の商業都市として栄え、大正11年(1922年)には県内で初めて市制を施行しました。また、鉄道の開通とともに各駅の周辺に新たな市街地の形成が進みました。

昭和40年代から50年代にかけて鳩山ニュータウンなどの大規模な宅地開発が進み、人口が急激に増加しました。大規模工業団地である川越狭山工業団地のほか多くの工業団地が造成されました。近年では、農業大学校跡地に総合重工業メーカーの航空事業部が進出するなど、先端産業の集積が進んでおり、地域の中小企業への波及効果や雇用の増加が期待されています。

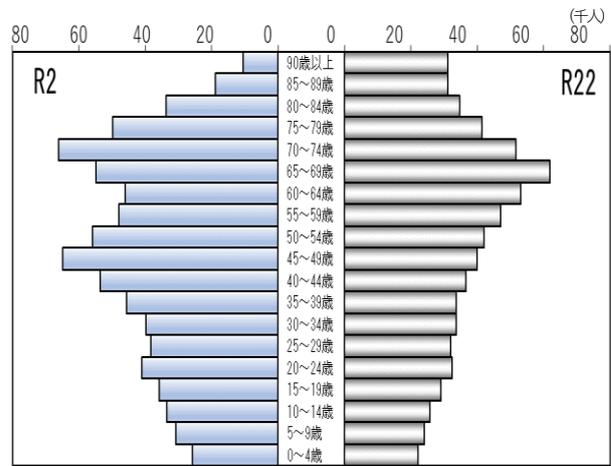
この地域には、JR八高線・川越線、東武東上線・越生線、西武新宿線が東西南北に走り、関越道、圏央道、国道16号・254号・407号が広域的な交通網を形成しています。

地域の現状と課題

○将来人口の見通し



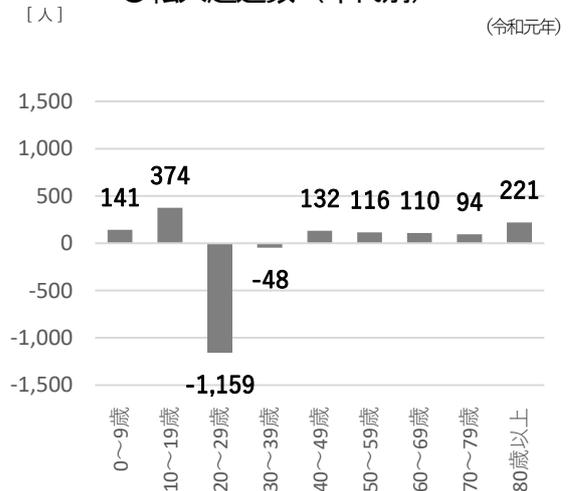
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口79万4千人（令和2年（2020年））、県人口の10.8%を占めると推計されており、20代を中心に転出超過、40代以上では転入超過となっています。

高齢化率（令和2年（2020年））は県平均よりも高く、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は5.5ポイント増加し約20%に達する見込みのため、在宅医療連携拠点*の機能強化など、高齢者を支える体制の充実が求められます。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内で中位の水準です。20代の転出超過数（令和元年（2019年））が多く、雇用の創出や就業の支援が必要です。

川越の蔵造りの町並みや東京2020オリンピックのレガシー*など、この地域が持つ資源を活用した観光振興の取組が期待されています。

この地域では、自動車関連、航空機関連の企業が立地するなど裾野が広い産業の集積も進んでいることから、地元中小企業の受注機会拡大や関連企業の更なる立地が期待されます。また、AI*・IoT*といった成長分野への投資により県内企業の競争力の強化が求められます。

地域づくりの方向性

台風や地震、土砂災害などに備え、新河岸川や市野川などの河川改修や土砂災害のおそれがある区域における砂防関係施設の整備を行うとともに、国道16号や254号などの道路啓開体制*や災害時の避難体制の強化を進め、地域のレジリエンス*を高めます。

また、山崩れなどの復旧整備や新たな崩壊等のおそれがある山地への治山施設*の整備を行います。

信号機のバリアフリー化などを推進し、地域の安心な暮らしを確保します。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築することで、高齢者の地域での安心な暮らしを確保します。

セカンドキャリアセンター*（川越）や埼玉未来大学*において、高齢者がそれぞれの意欲や希望に合わせて社会で活躍できるよう支援を行います。

また、セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行うとともに、発達障害者就労支援センター（ジョブセンター川越）で就労を希望する発達障害*者への支援を行います。

こども動物自然公園や蔵造りの町並みなど、多様な地域の資源を活用した観光振興を行います。

このほか、テレワーク*など新たな働き方の普及に伴う関係人口*を創出し、都市部からの移住・定住を促します。

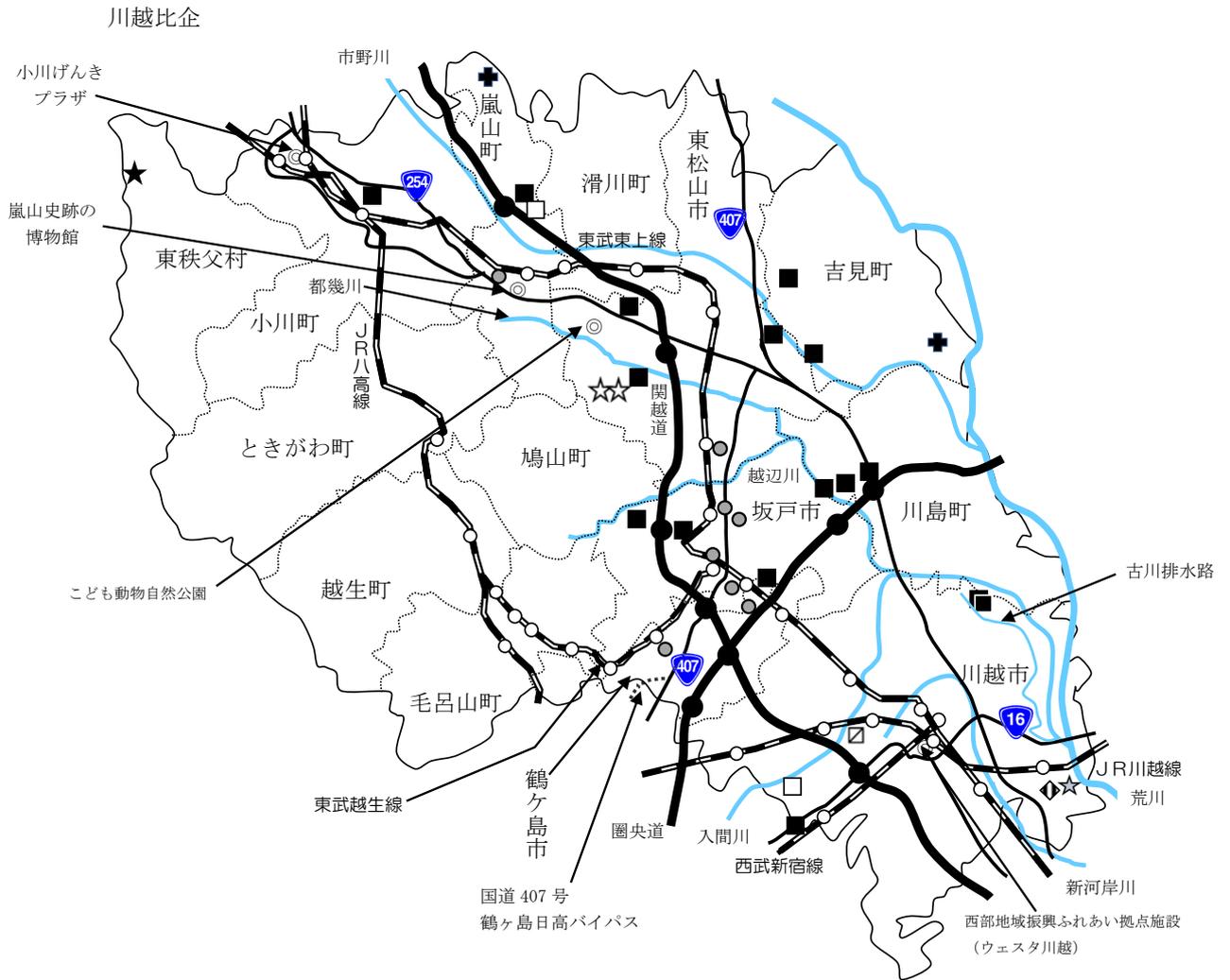
基幹となる道路や中山間地域*の生活を支える身近な道路について、バイパス整備や現道拡幅を行うとともに、バス路線の維持や地域公共交通の活性化に向けた支援により、県民の日常を支える生活交通を確保します。

また、独創的な技術などにより新たな事業展開を目指すベンチャー企業への支援などを通して中小企業の競争力を高めるとともに、農業大学校跡地などを活用し、成長産業の集積を促進することで地域の「稼げる力」を向上します。

自然と調和したみどり豊かな住環境の実現に向けて、地元自治体や民間事業者など多様な主体と連携した身近な緑地の整備・保全や、水辺空間の利活用、自然公園の保全を行います。

このほか、うめやゆずなどの果樹、ほうれんそうやさといもなどの野菜など地域の特徴を生かした生産振興を更に進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況



凡 例

-  自動車専用道路(●,● :JCT又はIC)
-  国道
-  国道(事業区間)
-  鉄道(○:駅)
-  工業団地(産業団地含む)
-  工業団地(計画・造成中)
-  主な取組に記載された主要施設
-  土地区画整理事業施行中地区
-  ほ場整備事業施行地区
-  (県)博物館、美術館、水族館、動物園
-  (県)図書館、専門校、多目的ホール等
-  (県)体験・ふれあい施設
-  (県)公園、スポーツ施設等
-  (県)医療施設、福祉施設

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 大地震に備えた、国道16号や254号などの道路啓開体制*の強化
- 新河岸川や市野川などの河川改修
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化
- 治山施設*・保安林*の整備

県民の暮らしの安心確保

- 水源かん養*機能を持続的に発揮できる森づくりの実施
- 信号機のバリアフリー化、信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援
- 臨床研修医*及び後期研修医*など医師の誘導・定着策の実施

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の構築

未来を創る子供たちの育成

- 増加の著しい日本語指導が必要な児童生徒への支援
- 体験活動の推進（小川げんきプラザ）

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*（川越）による高齢者の就業支援
- 埼玉未来大学*による高齢者の社会参加の支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援
- 発達障害者就労支援センター（ジョブセンター川越）による就労支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- こども動物自然公園や蔵造りの町並みなど地域資源を活用した観光振興や、多彩なツーリズムの促進

- 文化財の保存、活用、情報発信など文化資源を生かした地域振興（嵐山史跡の博物館）
- テレワーク*など新たな働き方の普及に伴う関係人口*の創出や移住・定住の促進
- 多言語による情報提供や相談体制の確保

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- 中山間地域*の生活を支える道路の整備や身近な生活道路の整備促進
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保対策
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*の実施と促進

豊かな自然と共生する社会の実現

- さんどめ三富地域の平地林の整備・保全・活用
- 地元自治体や関係団体等と連携した身近な緑地の整備・保全・活用
- 地元自治体や民間事業者などと連携した水辺空間の利活用の促進
- 自然公園の保全
- 農山村体験などによる都市住民との交流の拡大

稼げる力の向上

- 圏央道以北地域などへの企業誘致の推進
- 企業立地などを促進する幹線道路の整備
- 西部地域振興ふれあい拠点施設を拠点とした創業・ベンチャー企業の支援
- 農業大学校跡地などを活用した成長産業の集積促進

儲かる農林業の推進

- 優良農地の確保と農地中間管理事業*の活用などによる担い手への農地集積・集約化の促進
- 低コストなほ場整備*など効率的な生産を実現する基盤整備
- うめやゆずなどの果樹、ほうれんそうやさといもなどの野菜など地域の特徴を生かした生産振興の支援
- 県産木材の安定的な供給体制の整備

西部地域

(所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市)

地域の概要

県の西部に位置し、都心から30～60km圏にあります。西側の外秩父山地から、高麗・加治・狭山などの丘陵を経て、東端の武蔵野台地へと続く起伏に富んだ地形です。

江戸時代には所沢、狭山、入間が交通や物流の中継地となり、農産物や薪などが集積する地域として発展しました。日本農業遺産の認定地域でもある三富地域では短冊状の地割を特徴とする優良な農地が形成されました。飯能から入間川などを利用して、西川材と呼ばれる優良な木材を江戸に運ぶいかだ流しも盛んに行われました。

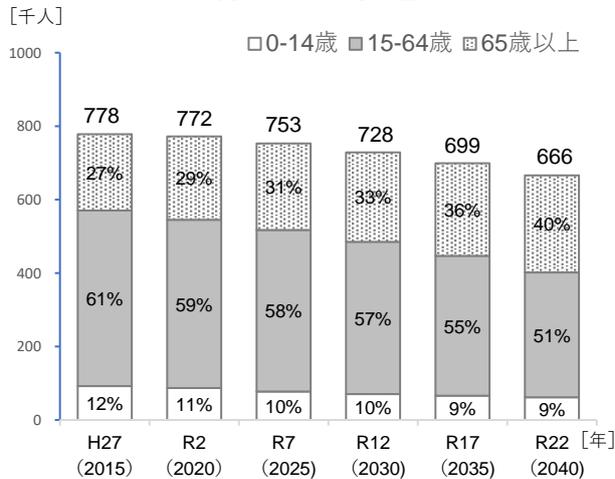
所沢は明治44年(1911年)に日本初の飛行場が設置され、航空発祥の地となっています。全国的な知名度を誇る狭山茶といった特産品があるほか、平成28年(2016年)に建群1300年を迎えた旧高麗郡に関連する高麗神社など、古い歴史を持つ名所や旧跡が残る地域でもあります。また、野球やサッカーのプロチームの本拠地があるほか、近年では北欧をイメージしたテーマパークや日本最大級のポップカルチャー*の発信拠点もオープンしました。

明治以降、鉄道が開通すると、鉄道沿線を中心に新たな市街地が形成されました。高度経済成長期には、大規模な住宅団地や工業団地が造成され、人口が急増するとともに電子部品や機械分野の製造業が集積しました。

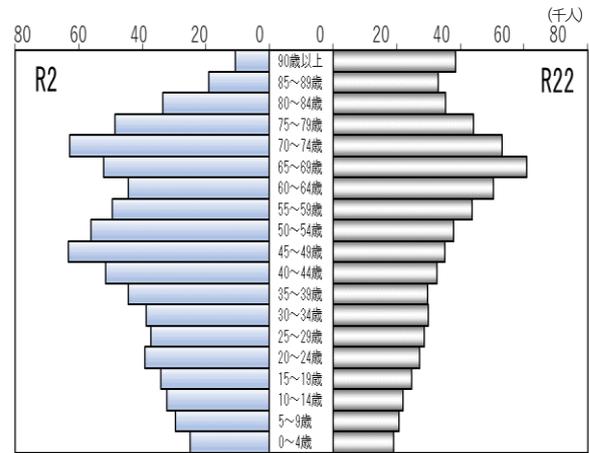
JR八高線・川越線・武蔵野線、西武池袋線・新宿線・秩父線などが東西南北に走り、関越道、圏央道、国道16号・299号・407号・463号による広域的な交通網が形成されています。

地域の現状と課題

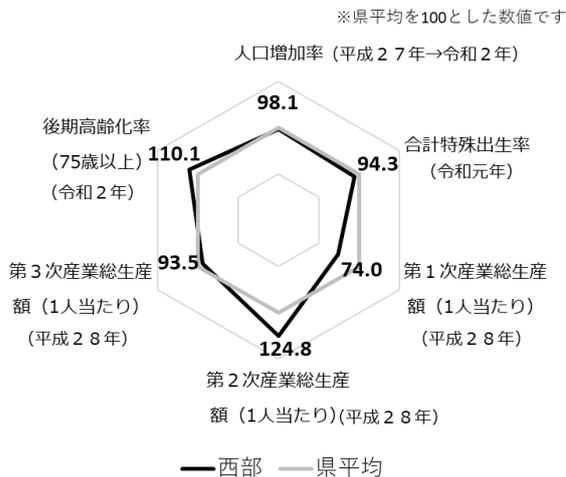
○将来人口の見通し



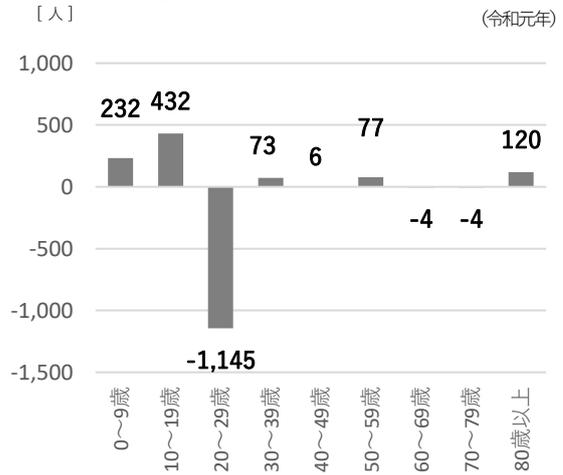
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口77万2千人（令和2年（2020年））、県人口の10.5%を占めると推計されており、19歳未満が転入超過である一方で、20代では転出超過となっていることが特徴です。

高齢化率（令和2年（2020年））は県平均よりも高く、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は8.2ポイント増加し約23%に達する見込みです。急速な高齢化に対応するため、高齢者向け住まいの整備や在宅医療連携拠点*の機能強化など、高齢者を支える体制の充実が求められます。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内でも低い水準です。20代の転出超過数（令和元年（2019年））が多く、雇用の創出や就業の支援が必要です。

博物館・美術館・図書館・アニメミュージアムが融合した日本最大級のポップカルチャー*の発信拠点である大規模複合施設や、北欧のライフスタイルやムーミンの世界観を体感できる施設といった新しい魅力を活用し、この地域のみならず県全体の活性化が期待されています。

圏央道の整備や、近年では国道299号台飯能工区及び県道飯能寄居線バイパス整備が完成し供用開始となるなど、交通利便性の向上を生かした更なる企業立地の促進が求められます。

地域づくりの方向性

台風や地震、土砂災害などに備え、入間川などの河川改修や土砂災害のおそれがある区域における砂防関係施設の整備を行うとともに、国道16号などの道路啓開体制*や災害時の避難体制の強化を進め、地域のレジリエンス*を高めます。

また、山崩れなどの復旧整備や新たな崩壊等のおそれがある山地への治山施設*の整備を行います。

信号機のバリアフリー化などを推進し、地域の安心な暮らしを確保します。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が安心して在宅で療養できる体制を構築するとともに、サービス付き高齢者向け住宅*の整備を支援することで、地域で安心して生活できる環境の整備を進めます。

子育て世代の転入・定着促進を図るため、放課後の安心・安全な居場所づくりや、子育てしやすい住環境の整備を進めます。

知的障害特別支援学校の児童生徒数は引き続き増加傾向にあるため、過密解消に向けた整備を行います。

また、セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行うとともに、セカンドキャリアセンター*（所沢）で就労を希望する高齢者への支援を行います。

北欧をイメージしたテーマパークであるメッツァやところざわサクラタウンなど、多様な地域の資源を活用した観光振興を行います。

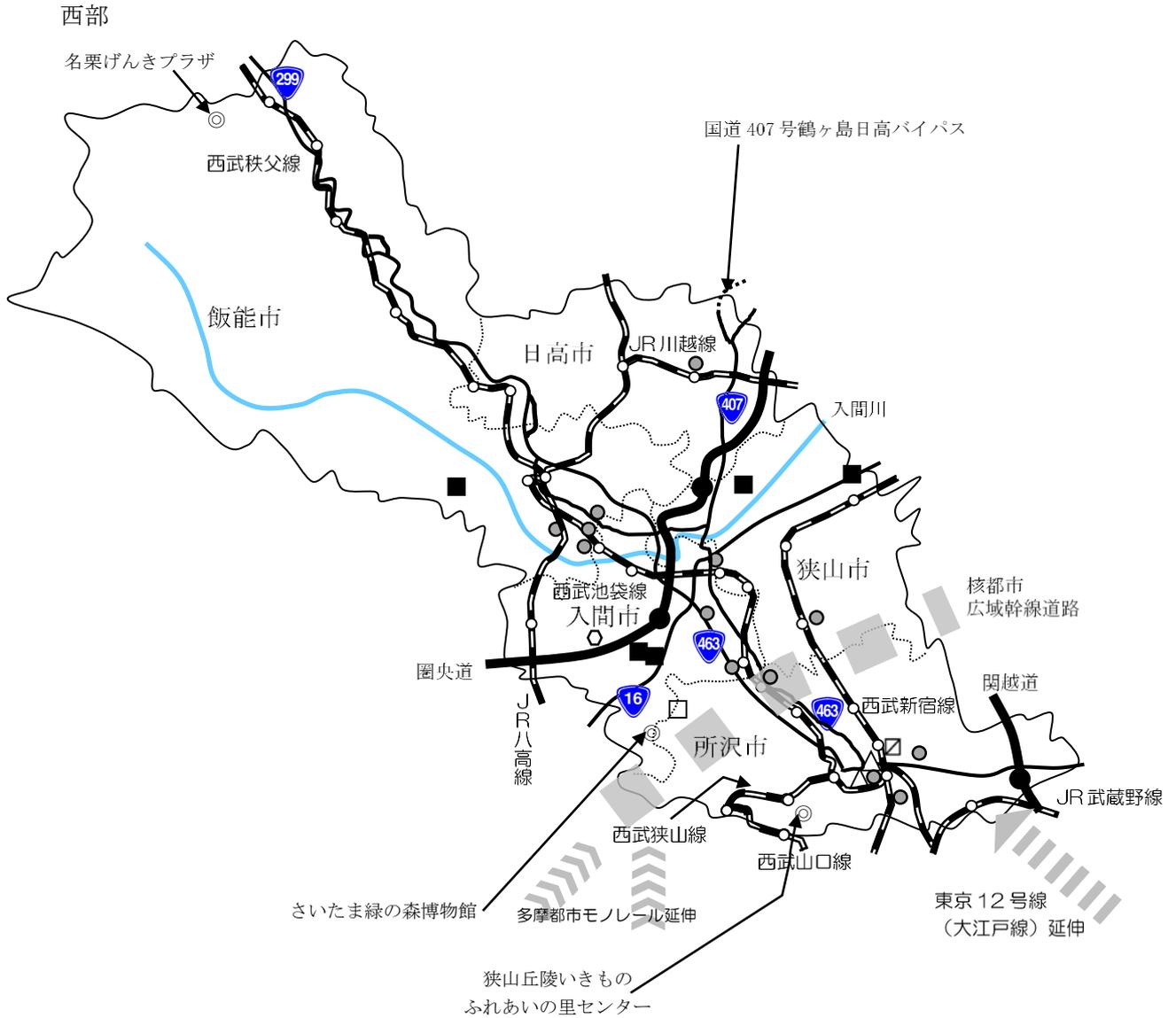
このほか、テレワーク*など新たな働き方の普及に伴う関係人口*を創出し、都市部からの移住・定住を促します。

基幹となる道路や中山間地域*の生活を支える身近な道路について、バイパス整備や現道拡幅を行うとともに、東京12号線（大江戸線）延伸に向けた検討を行い、地域の社会基盤としての価値を高めます。また、米軍基地跡地については、地域の意向に沿った利用がなされるよう支援します。

潤いのある豊かな都市空間の実現に向けて、地元自治体や民間事業者など多様な主体と連携した身近な緑地の整備・保全や、水辺空間の利活用、自然公園の保全や自然ふれあい施設（狭山丘陵いきものふれあいの里センター、さいたま緑の森博物館）の利用促進を図ります。

このほか、ほうれんそうやさといもなどの野菜、お茶やくりなど地域の特徴を生かした生産振興を更に進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況



凡 例	
	自動車専用道路(●, ● : JCT又はIC)
	国道
	国道(事業区間)
	検討中の道路
	鉄道(○: 駅)
	交通政策審議会答申路線
	交通政策審議会未答申路線
	工業団地
	工業団地(計画・造成中)
	主な取組に記載された主要施設
	土地区画整理事業施行中地区
	市街地再開発事業施行中地区
	(県)公園、スポーツ施設等
	(県)産業支援・研究施設

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 大地震に備えた、国道16号などの道路啓開体制*の強化
- 入間川などの河川改修
- ゲリラ豪雨対策の実施
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化
- 治山施設*・保安林*の整備

県民の暮らしの安心確保

- 水源かん養*機能を持続的に発揮できる森づくりの実施
- 信号機のバリアフリー化、信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 高齢者の急増に備えた在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 急速な高齢化に対応した地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援
- サービス付き高齢者向け住宅*の整備促進など高齢者向け住まいの確保の支援

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の構築
- 放課後児童クラブ*の充実
- 子育てしやすい住宅の普及促進

未来を創る子供たちの育成

- 共生社会*を目指した「多様な学びの場*」の充実
- 日本語指導が必要な児童生徒への支援
- 体験活動の推進（名栗げんきプラザ）

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*（所沢）による高齢者の就業支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- メッツァやところざわサクラタウンなどの地域資源を活用した観光振興や、多彩なツーリズムの促進
- 子供から高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の充実
- テレワーク*など新たな働き方の普及に伴う関係人口*の創出や移住・定住の促進

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- 中山間地域*の生活を支える道路の整備や身近な生活道路の整備促進
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保対策
- あと数マイルプロジェクト*に基づく鉄道網の延伸検討（東京12号線（大江戸線））
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*や市街地再開発事業*の実施と促進
- 米軍基地跡地の有効利用

豊かな自然と共生する社会の実現

- 三富^{さんとも}地域の平地林の整備・保全・活用
- 地元自治体や関係団体等と連携した身近な緑地の整備・保全・活用
- 地元自治体や民間事業者などと連携した水辺空間の利活用の促進
- 自然公園の保全や自然ふれあい施設（狭山丘陵いきものふれあいの里センター、さいたま緑の森博物館）の利用促進
- 農山村体験などによる都市住民との交流の拡大

稼げる力の向上

- 圏央道以北地域などへの企業誘致の推進
- 企業立地などを促進する幹線道路の整備

儲かる農林業の推進

- ほうれんそうやさといもなどの野菜、お茶やくりなど地域の特徴を生かした生産振興の支援
- 県産木材の安定的な供給体制の整備

利根地域

(行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町)

地域の概要

関東平野のほぼ中央に当たる県の北東部、都心から40～60km圏に位置しています。地域の大半は勾配が極めて緩やかな加須低地や中川低地であり、大落古利根川、中川などの河川や葛西用水などの農業用水路が広大な水路網を形成しています。

埼玉古墳群が所在するなど県名発祥の地といわれ、古くからの歴史を持つ地域です。江戸時代には、治水と新田開発を進めるため利根川の東遷が行われ、度重なる水路の開削などにより今日の河川や水路網の原形が形成されました。利根川からの豊かな水や平坦な地形、肥沃な土壌を生かした稲作が盛んな県内有数の穀倉地帯でもあります。

忍城の城下町として栄えた行田のほか、杉戸、幸手は日光街道の宿場町、久喜は主要街道を結ぶ物流の拠点として、羽生や加須は利根川の水運の要衝、蓮田は見沼通船の拠点としてそれぞれ栄えました。

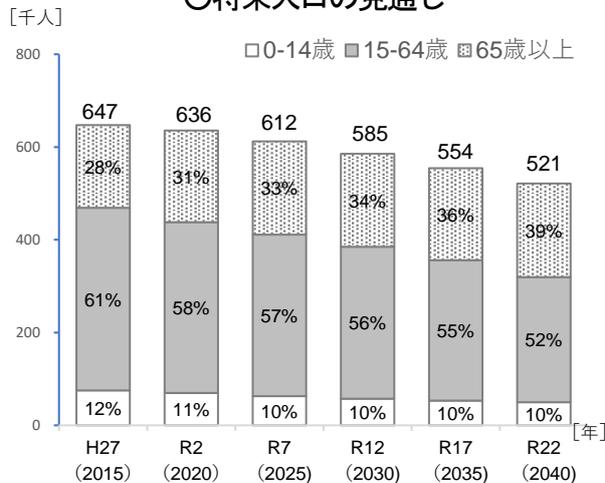
昭和40年代以降は、東北道の開通や宅地、大規模工業団地の造成に伴い、人口の増加や数多くの企業の立地が進みました。

平成29年(2017年)に「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が県内初の日本遺産に認定されたほか、令和2年(2020年)には埼玉古墳群が令和初の国指定特別史跡に指定されるなど、国内外に誇る地域資源を有しています。

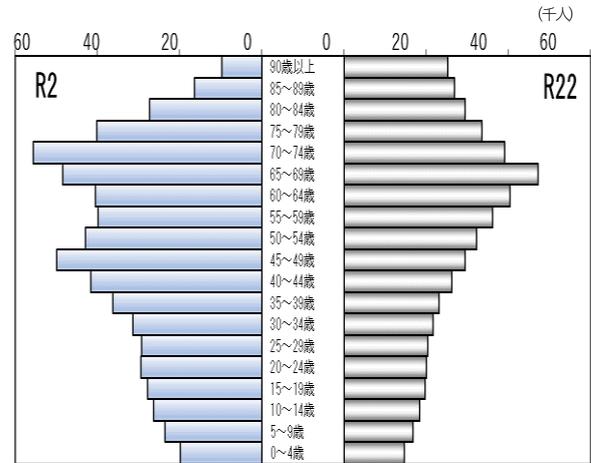
JR高崎線・東北線、東武伊勢崎線・日光線、秩父鉄道からなる鉄道網、東北道、圏央道、国道4号・122号・125号などからなる広域的な道路網が形成されています。

地域の現状と課題

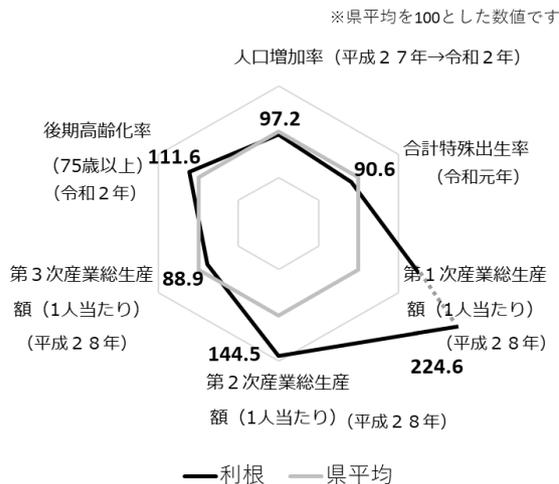
○将来人口の見通し



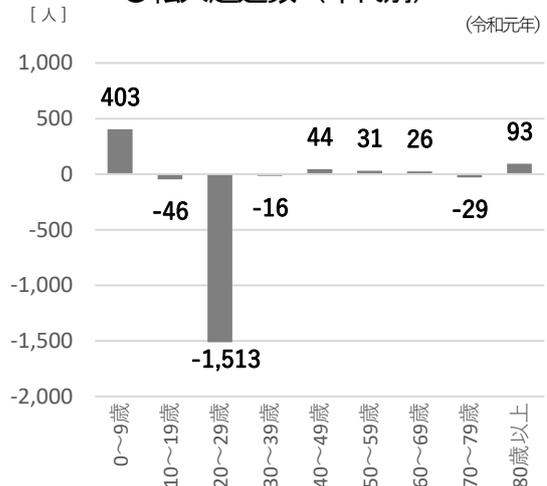
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口63万6千人（令和2年（2020年））、県人口の8.7%を占めると推計されており、20代を中心に転出超過数が多くなっています。低地に市街地が広がっているため、台風などに対する防災・治水対策を強化することが求められます。

高齢化率（令和2年（2020年））は秩父地域に次いで高く、また、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は7.4ポイント増加し約22%に達する見込みであり、高齢者を支える体制の充実が求められます。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内でも低い水準です。20代の転出超過数（令和元年（2019年））が多く、雇用の創出や就業の支援が必要です。

史跡・アニメの舞台・足袋や藍染めなどの伝統産業といった多様な地域資源を活用した魅力的な地域づくりを更に進めることが求められています。

圏央道と東北道の結節やJR上野東京ラインの開業に続き、加須市から群馬県に続くバイパス道路の開通や、国道125号バイパスの全線開通など交通の利便性が向上しています。

若者や子育て世代の転入・定着促進を図るため、こうした交通利便性の高さを生かした企業立地の促進などにより、地域経済の活力を高めていく必要があります。

地域づくりの方向性

台風や地震などの災害に備え、中川などの河川改修を行うとともに、国道122号や125号などの道路啓開体制*の強化を進め、地域のレジリエンス*を高めます。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築するとともに、サービス付き高齢者向け住宅*の整備を支援することで、地域で安心して生活できる環境の整備を進めます。

また、子育て世代の転入・定着促進を図るため、待機児童の解消に向けて保育所などの整備を促進するとともに、放課後の安心・安全な居場所づくりを進めます。

知的障害特別支援学校の児童生徒数は引き続き増加傾向にあるため、過密解消に向けた整備を行います。

地域の特色に応じた高齢者の健康づくりの取組を推進するとともに、セカンドキャリアセンター*（加須）において、高齢者がそれぞれの意欲や希望に合わせて働けるような就業支援を行います。

セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行います。

令和2年（2020年）に国指定特別史跡に指定された埼玉古墳群^{さきたま}や映画「のぼうの城」の舞台である忍城^{おし}などの歴史資源、行田の足袋や羽生の藍染などの伝統産業、アニメ「らき☆すた」の舞台である鷲宮神社、桜の名所である権現堂の桜堤といった観光資源など、豊富な地域の資源を生かした地域振興を行います。

経済活動を支える基盤となる道路網の充実に向け、観光地へのアクセス性を高める道路を整備するとともに、スマートインターチェンジ*（蓮田）のフル化などによりアクセス改善を進めます。あわせて、埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線）延伸に向けた検討を行い、地域の価値を高めます。

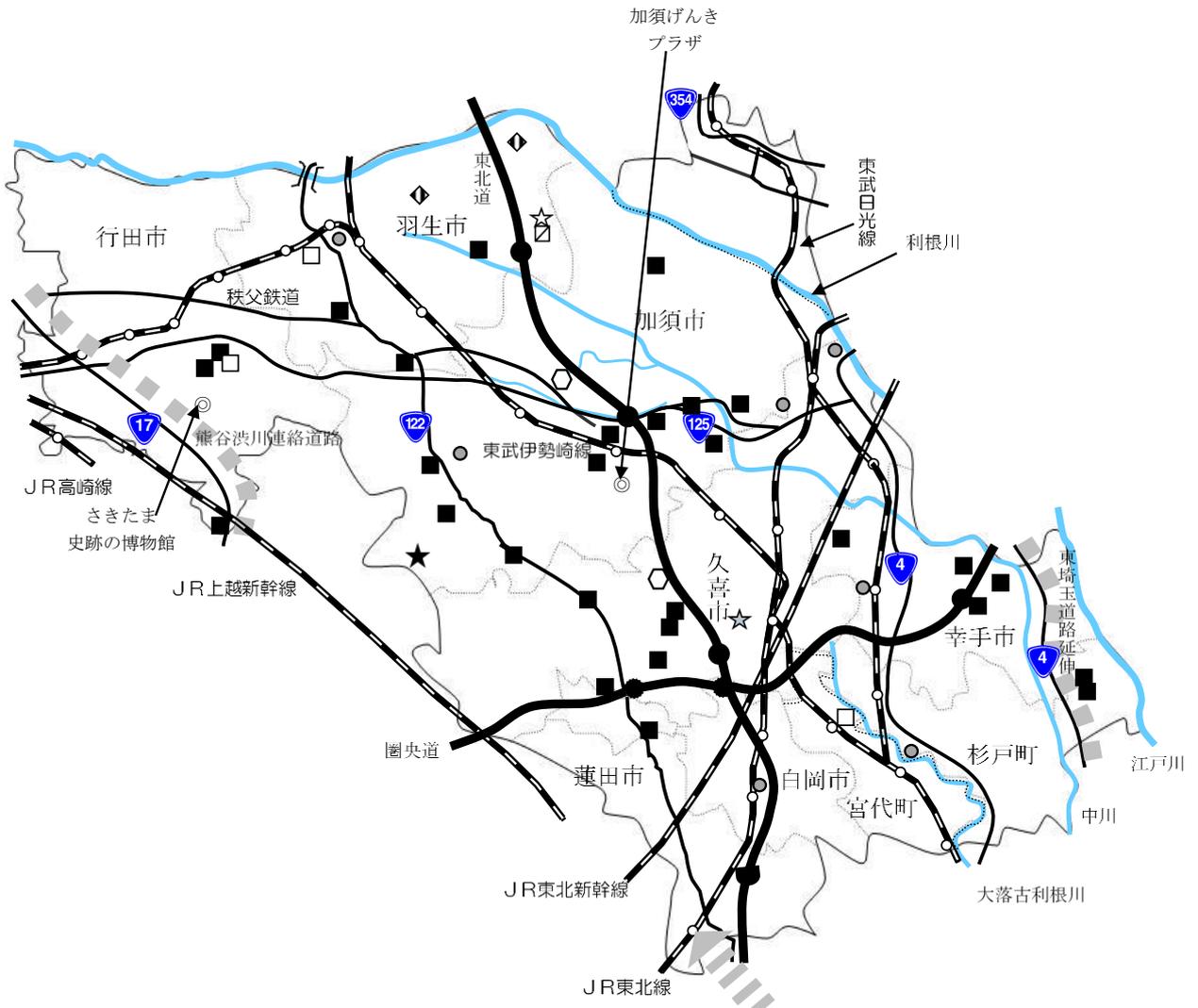
また、こうしたポテンシャルを生かして企業誘致を積極的に進め、魅力ある雇用を創出することで、若年世代の転入・定着を促進します。

自然と調和した住環境の実現に向けて、地元自治体や民間事業者など多様な主体と連携した身近な緑地の整備・保全や水辺空間の利活用を行います。

このほか、担い手への農地の集積・集約化や低コストなほ場整備*など生産基盤の整備を進めます。また、日本なしやいちじくなどの果樹、きゅうりやトマトなどの野菜、米など地域の特徴を生かした生産振興を更に進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況

利根



埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線）延伸

凡 例	
	自動車専用道路(●,● : JCT又はIC)
	国道
	検討中の道路
	鉄道(○: 駅)
	交通政策審議会答申路線
	工業団地(産業団地・流通業務団地含む)
	工業団地(計画・造成中)
	主な取組に記載された主要施設
	土地区画整理事業施行中地区
	ほ場整備事業施行地区
	(県)博物館、美術館、水族館、動物園
	(県)図書館、専門校、多目的ホール等
	(県)体験・ふれあい施設
	(県)公園、スポーツ施設等
	(県)産業支援・研究施設

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 大地震に備えた、国道122号や125号などの道路啓開体制*の強化
- 中川などの河川改修
- ゲリラ豪雨対策の実施

県民の暮らしの安心確保

- 信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 高齢者の急増に備えた在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 急速な高齢化に対応した地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援
- サービス付き高齢者向け住宅*の整備促進など高齢者向け住まいの確保の支援
- 臨床研修医*及び後期研修医*など医師の誘導・定着策の実施
- 看護師の質的・量的な確保・養成

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の構築
- 保育所、認定こども園*、企業内保育所などの整備促進
- 放課後児童クラブ*の充実

未来を創る子供たちの育成

- 共生社会*を目指した「多様な学びの場*」の充実
- 日本語指導が必要な児童生徒への支援
- 体験活動の推進（加須げんきプラザ）

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*（加須）による高齢者の就業支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- 埼玉古墳群など地域資源を活用した観光振興や、多彩なツーリズムの促進
- 文化財の保存、活用、情報発信など文化資源を生かした地域振興（さきたま史跡の博物館）

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- スマートインターチェンジ*（蓮田）のフル化に対する支援
- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- 地域鉄道の安全性向上を目指す設備整備への支援
- あと数マイルプロジェクト*に基づく鉄道網の延伸検討（埼玉高速鉄道線（地下鉄7号線））
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*の実施と促進
- 快適で楽しい公園空間の提供

豊かな自然と共生する社会の実現

- 地元自治体や関係団体等と連携した身近な緑地の整備・保全・活用
- 非かんがい期における農業用水路などへの通水の実施
- 地元自治体や民間事業者などと連携した水辺空間の利活用の促進

稼げる力の向上

- 圏央道以北地域などへの企業誘致の推進
- 企業立地などを促進する幹線道路の整備

儲かる農林業の推進

- 優良農地の確保と農地中間管理事業*の活用などによる担い手への農地集積・集約化の促進
- 低コストなほ場整備*など効率的な生産を実現する基盤整備
- 日本なしやいちじくなどの果樹、きゅうりやトマトなどの野菜、米など地域の特徴を生かした生産振興の支援

北部地域
(熊谷市、本庄市、深谷市、美里町、神川町、上里町、寄居町)

地域の概要

県の北西部に位置し、都心から50～80km圏にあります。西端の山地から丘陵地帯、中央に広がる台地を経て、東端の妻沼低地へと続く起伏に富んだ地形であり、利根川、荒川、小山川などの豊かな水と肥沃な土壤に恵まれた地域です。県内有数の農業地帯であり、全国トップクラスの生産量を誇る野菜をはじめ、花き、果樹、畜産など様々な農畜産物の生産が行われています。

「近代日本経済の父」と呼ばれ、新一万円札の肖像や大河ドラマの主人公にも選ばれた深谷の渋沢栄一をはじめ、本庄の塙保己一、熊谷の荻野吟子など著名な偉人を輩出した地域でもあります。中山道の宿場町であった熊谷、深谷、本庄、秩父往還沿いの寄居などは多くの人が行き交い、商業を中心に発展しました。明治以降、鉄道が開通すると、交通の要衝としての重要性が更に高まりました。

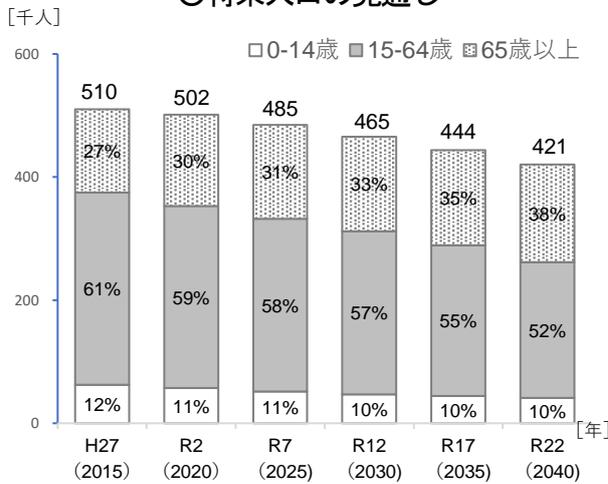
昭和30年代以降、深谷市、熊谷市、本庄市などに大規模な工業団地が相次いで造成され、関越道にもアクセスしやすいことから企業立地が進み、特に食料品製造業などの集積が進んでいます。

ラグビーワールドカップ2019*が開催された熊谷ラグビー場は、「西の花園、東の熊谷」と称されるラグビーの聖地です。

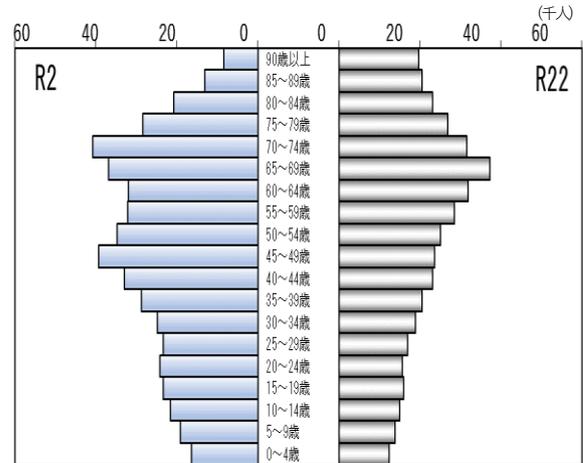
上越・北陸新幹線のほか、JR高崎線・八高線、東武東上線、秩父鉄道からなる鉄道網、関越道、国道17号・125号・140号・254号・407号・462号からなる広域的な道路網を有しています。

地域の現状と課題

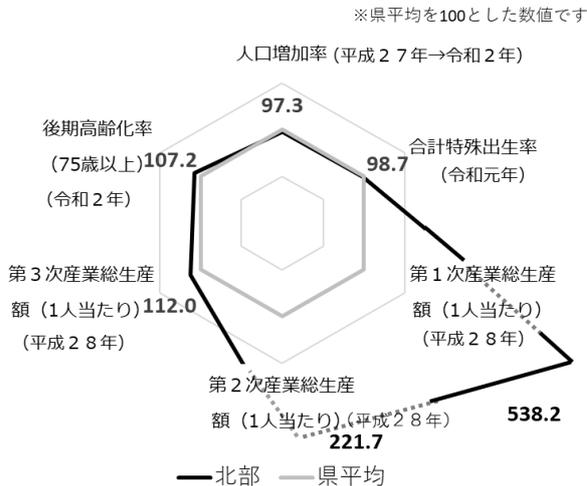
○将来人口の見通し



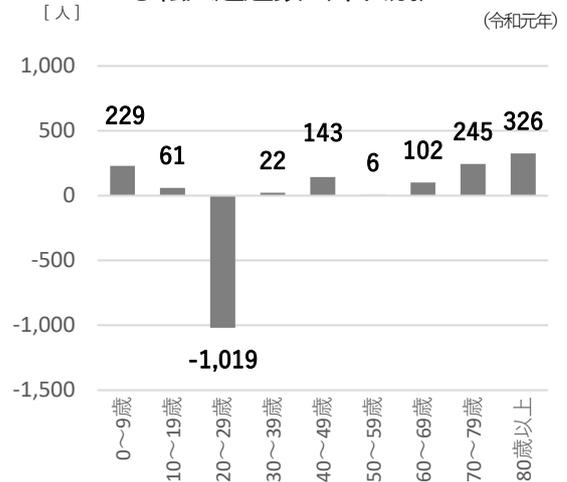
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口50万2千人（令和2年（2020年））、県人口の6.8%を占めると推計されており、20代の転出超過数が多いことが特徴です。

高齢化率（令和2年（2020年））は県平均よりも高く、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は7.4ポイント増加し約21%に達する見込みであり、急速な高齢化に対応するため、高齢者を支える体制の充実が求められます。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内で中位の水準です。20代の転出超過数（令和元年（2019年））が多く、雇用の創出や就業の支援が必要です。

この地域は、史跡等の文化財や個性豊かな祭りなど豊富な地域資源を有しています。歴史が形作ってきたこのような地域の特色に加え、ラグビーワールドカップ2019*や大河ドラマ放映などの機会を生かし、地域を活性化していくことが期待されています。

豊かな自然環境を生かしながら競争力のある農産物の産地形成を図るとともに、関越道におけるスマートインターチェンジ*の設置や秩父鉄道の新駅開業など整備が進む交通網を武器に企業の立地を促進していくことが求められます。

農林業などの地域産業の魅力発信やテレワーク*などの新たな働き方の普及などをうまく活用することで、地域外からの移住や定住を促していくことも必要です。

地域づくりの方向性

台風や地震、土砂災害などに備え、元小山川などの河川改修や土砂災害のおそれがある区域における砂防関係施設の整備を行うとともに、国道17号や140号などの道路啓開体制*や災害時の避難体制の強化を進め、地域のレジリエンス*を高めます。

また、山崩れなどの復旧整備や新たな崩壊等のおそれがある山地への治山施設*の整備を行います。

信号機のバリアフリー化などを推進し、地域の安心な暮らしを確保します。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築することで、高齢者の地域での安心な暮らしを確保します。

セカンドキャリアセンター*（深谷）や埼玉未来大学*において、高齢者がそれぞれの意欲や希望に合わせて社会で活躍できるよう支援を行います。

熊谷児童相談所及び一時保護所の整備を行います。また、セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行うとともに、発達障害者就労支援センター（ジョブセンター熊谷）で就労を希望する発達障害*者への就労支援を行います。

日本三大聖天の一つである妻沼聖天山、三偉人ゆかりの地や史跡等の文化財、個性豊かな祭りなど、多様な地域の資源を活用した観光振興を行います。

ラグビーの国内トップチームの本拠地でもある熊谷の地を生かし、ラグビーワールドカップ2019*のレガシー*となる熊谷スポーツ文化公園の利活用を促進するほか、プロ・トップスポーツチーム（ラグビー、野球など）との連携をはじめとし、子供から高齢者までスポーツに親しめる機会の充実を図ります。

また、テレワーク*など新たな働き方の普及に伴う関係人口*を創出し、都市部からの移住・定住を促します。

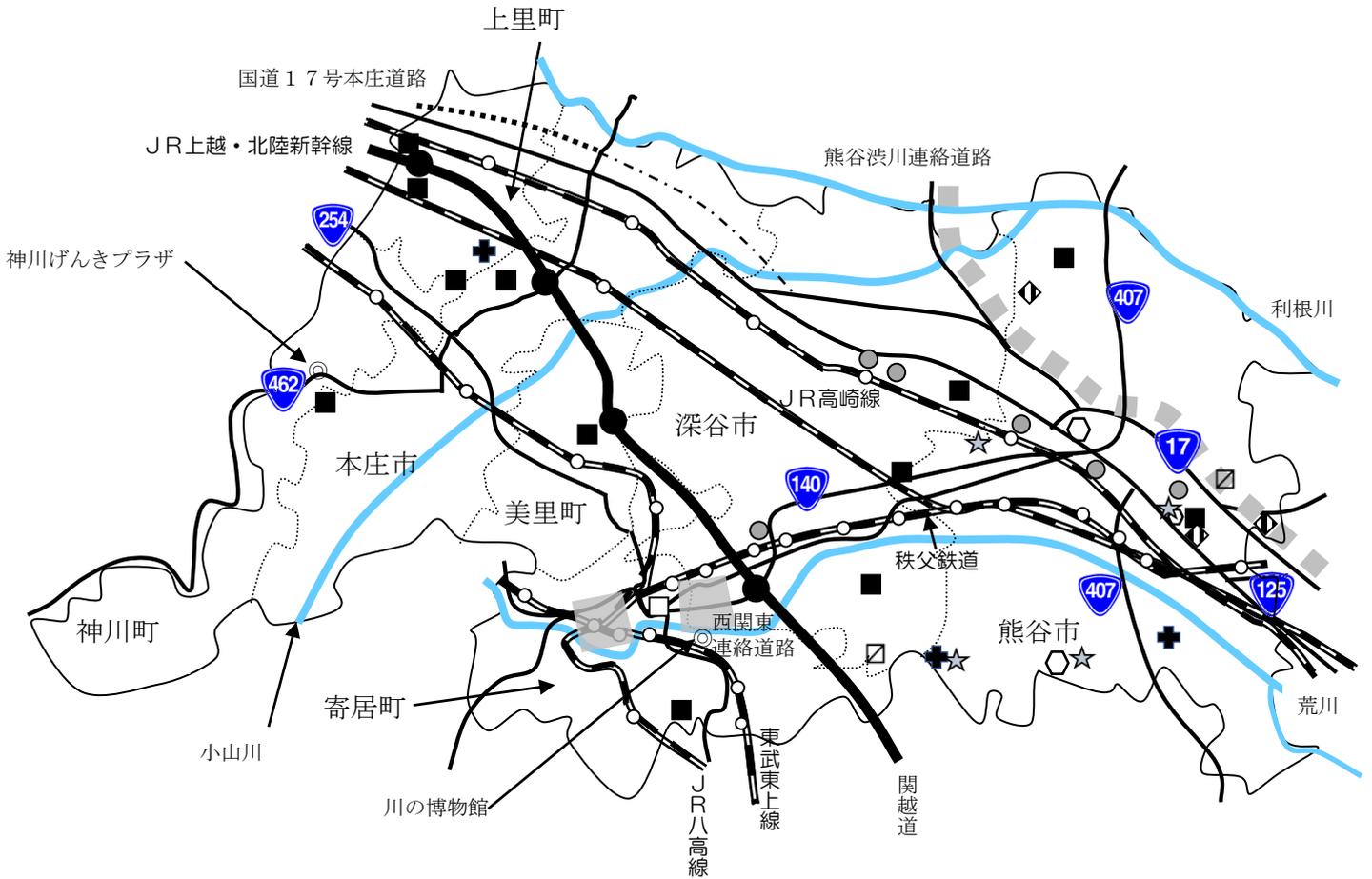
基幹となる道路や中山間地域*の生活を支える身近な道路について、バイパス整備や現道拡幅を行うとともに、バス路線の維持や地域公共交通の活性化に向けた支援により、県民の日常を支える生活交通を確保します。

企業誘致を積極的に進め、魅力ある雇用を創出することで、若年世代の転入・定着を促進するとともに、産業技術総合センター北部研究所を活用し、食品分野などの事業化や製品開発を支援することで、地域の「稼げる力」を向上します。

このほか、担い手への農地の集積・集約化や、低コストなほ場整備*など生産基盤の整備を進めます。また、小麦やねぎ、和牛など地域の特徴を生かした生産振興を更に進め、農業の収益力を高めます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況

北部



凡 例	
	自動車専用道路(●,● : JCT又はIC)
	国道
	国道(事業区間)
	国道(計画区間)
	検討中の道路
	鉄道(○: 駅)
	工業団地(産業団地含む)
	工業団地(計画・造成中)
	主な取組に記載された主要施設
	土地区画整理事業施行中地区
	ほ場整備事業施行地区
	(県)図書館、専門校、多目的ホール等
	(県)公園、スポーツ施設等
	(県)医療施設、福祉施設
	(県)産業支援・研究施設

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 大地震に備えた、国道17号や140号などの道路啓開体制*の強化
- 元小山川などの河川改修
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化
- 治山施設*・保安林*の整備

県民の暮らしの安心確保

- 水源かん養*機能を持続的に発揮できる森づくりの実施
- 信号機のバリアフリー化、信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 高齢者の急増に備えた在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 急速な高齢化に対応した地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援
- 臨床研修医*及び後期研修医*など医師の誘導・定着策の実施
- 看護師の質的・量的な確保・養成

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の推進
- 熊谷児童相談所・一時保護所の整備

未来を創る子供たちの育成

- 日本語指導が必要な児童生徒への支援
- 体験活動の推進（神川げんきプラザ）

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*（深谷）による高齢者の就業支援
- 埼玉未来大学*による高齢者の社会参加の支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援
- 発達障害者就労支援センター（ジョブセンター熊谷）による就労支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- 三偉人や史跡等の文化財、個性豊かな祭りなどの地域資源を活用した観光振興や、多彩なツーリズムの促進
- 文化財の保存、活用、情報発信など文化資源を生かした地域振興（川の博物館）
- 子供から高齢者まで誰もが気軽にスポーツに親しめる機会と場の充実
- テレワーク*など新たな働き方の普及に伴う関係人口*の創出や移住・定住の促進
- ラグビーワールドカップ2019*のレガシー*を生かした公園の利活用

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- 中山間地域*の生活を支える道路の整備や身近な生活道路の整備促進
- 地域鉄道の安全性向上を目指す設備整備への支援
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保対策
- 安全な市街地を形成する土地区画整理事業*の実施と促進

豊かな自然と共生する社会の実現

- 自然公園の保全
- 農山村体験などによる都市住民との交流の拡大

稼げる力の向上

- 圏央道以北地域などへの企業誘致の推進
- 企業立地などを促進する幹線道路の整備
- 産学官連携や知的財産活用*などによる新技術・新製品の開発支援

儲かる農林業の推進

- 優良農地の確保と農地中間管理事業*の活用などによる担い手への農地集積・集約化の促進
- 低コストなほ場整備*など効率的な生産を実現する基盤整備
- 小麦やねぎ、和牛など地域の特徴を生かした生産振興の支援
- 県産木材の安定的な供給体制の整備

秩父地域
(秩父市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町)

地域の概要

県の北西部、都心から70～100km圏に位置しています。甲武信ヶ岳、両神山などの標高2,000m前後の山々に囲まれた中央に秩父盆地が位置しています。地域の8割を森林が占めるなど緑豊かな自然環境が残り、長瀬に代表される優れた景観にも恵まれています。

わが国最古の流通貨幣といわれる「和同開珎」ゆかりの地として知られるなど、古い歴史を持っています。江戸時代以降、養蚕や絹織物の生産が盛んに行われ、物資の集散地として発展し独自の習慣や風俗が形成されました。

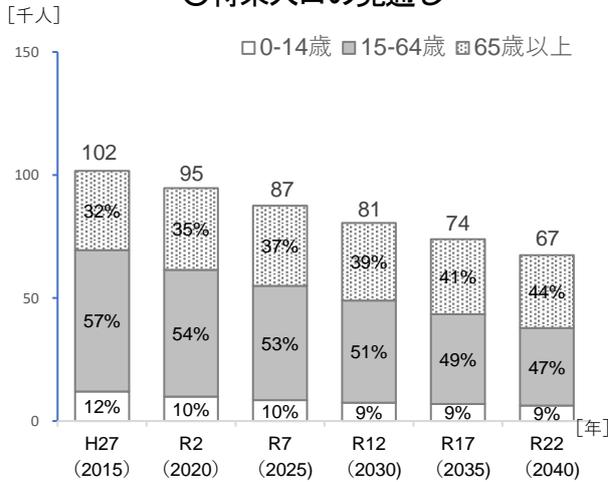
明治以降、交通網の整備に伴い地域内外との交流も活発になり、セメント産業をはじめ、繊維産業、林業などが盛んになりました。近年は産業構造の変化に伴い、金属製品、自動車関連産業のウェイトが高まっています。

中山間地域*の特性を生かした、そば、こんにゃく、きのこなどの農林産物の生産、観光と連携した果樹園などの観光農林業に加え、札所巡り、秩父夜祭のほか秩父ミュージアムパークやアニメゆかりの観光スポット、芝桜など多様な観光資源を有しています。

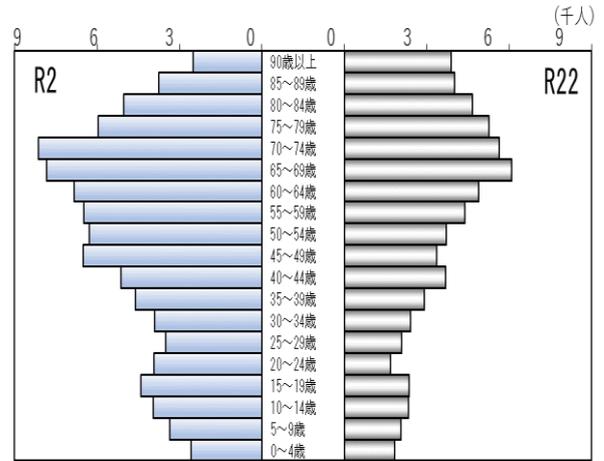
鉄道は西武秩父線、秩父鉄道が走り、通勤・通学の主要な交通手段となっています。道路は国道140号・299号が主要幹線道路となっています。また、西関東連絡道路の建設が進められており、皆野寄居バイパスの一部開通を皮切りに、平成30年(2018年)には皆野秩父バイパスが全線開通し、秩父地域へのアクセス強化が図られています。

地域の現状と課題

○将来人口の見通し



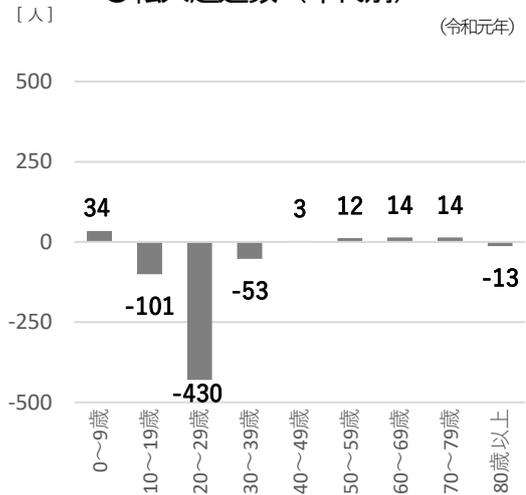
○人口ピラミッド



○人口関係データの県平均との比較



○転入超過数 (年代別)



この地域は、人口9万5千人（令和2年（2020年））、県人口の1.3%を占めると推計されており、10代後半から20代の転出超過数が多くなっています。

高齢化率（令和2年（2020年））は県内で最も高く、令和22年（2040年）までの間に、地域人口に占める75歳以上の後期高齢者の割合は8.3ポイント増加し約27%に達する見込みであり、急速な高齢化に対応するため、高齢者を支える体制の充実が求められます。

合計特殊出生率（令和元年（2019年））は県内で最も低くなっています。20代を中心に幅広い年齢層で転出超過（令和元年（2019年））となっており、雇用の創出や就業の支援に加え、移住・定住に向けた支援が必要です。

秩父夜祭は、京都祇園祭、飛騨高山祭と並んで日本三大曳山祭としても知られ、平成28年（2016年）には「秩父祭の屋台行事と神楽」を含む『山・鉦・屋台行事』33件がユネスコ無形文化遺産に登録されたほか、近年では雲海が新たな観光資源となっています。こうした魅力的な地域資源を生かして観光客を拡大することで地域を活性化していくことが期待されています。

テレワーク*などの新たな働き方の普及などをうまく活用することで、地域住民との多様な関わりを持つ関係人口*の創出を促していくことも必要です。

地域づくりの方向性

山地が広がるこの地域では、台風や地震、土砂災害などに備え、赤平川などの河川改修や土砂災害のおそれがある区域における砂防関係施設の整備を行うとともに、国道140号などの道路啓開体制*や災害時の避難体制の強化を進め、地域のレジリエンス*を高めます。

また、山崩れなどの復旧整備や新たな崩壊等のおそれがある山地への治山施設*の整備を行うとともに、広葉樹植栽等による針広混交林*の造成などにより、水源かん養*機能を持続的に発揮できる森づくりを行います。

地域の医療機関や介護事業所との連携を支援し、高齢者が在宅で療養できる体制を構築するとともに、サービス付き高齢者向け住宅*の整備を支援することで、地域で安心して生活できる環境の整備を進めます。

需要が増加する介護サービスの担い手を確保するため、高等技術専門学校*による介護人材の養成を行います。

秩父地域への産婦人科医や助産師等の派遣事業を支援することで、地域における産科医療の維持を図ります。

地域の特色に応じた高齢者の健康づくりの取組を推進するとともに、セカンドキャリアセンター*（秩父）において、高齢者がそれぞれの意欲や希望に合わせて働けるような就業支援を行います。

また、セミナーや相談などによる一人一人の状況に応じた就業支援や、キャリア形成も含めた働く女性へのワンストップの支援を行います。

ユネスコ無形文化遺産の秩父夜祭、小鹿野歌舞伎などの伝統芸能、農林産物や芝桜などの多様な地域資源を生かした観光振興を行います。

基幹となる道路や中山間地域*の生活を支える身近な道路について、バイパス整備や現道拡幅を行うとともに、バス路線の維持や地域公共交通の活性化に向けた支援により、県民の日常を支える生活交通を確保します。また、テレワーク*など新たな働き方の普及に伴う関係人口*を創出し、都市部からの移住・定住を促します。

ぶどうやいちご、きのこなど地域の特徴を生かした生産振興を更に進め、農業の収益力を高めます。また、間伐などによる適正な森林の整備を行うとともに、ICT*を活用した森林資源の管理や需給情報の共有化などを行い、県産木材の安定的な供給体制を整備していきます。

主な施設・交通網と基盤整備の状況

秩父



凡 例	
——	国道
.....	国道(事業区間)
■ ■ ■ ■	検討中の道路
—○—	鉄道(○: 駅)
■	工業団地
◎	主な取組に記載された主要施設
☆	(県) 博物館、美術館、水族館、動物園
★	(県) 図書館、専門校、多目的ホール等
□	(県) 公園、スポーツ施設等

主な取組

1. 安心・安全の追究

災害・危機に強い埼玉の構築

- 大地震に備えた、国道140号などの道路啓開体制*の強化
- 赤平川などの河川改修
- 土砂災害警戒区域における警戒避難体制の強化
- 治山施設*・保安林*の整備

県民の暮らしの安心確保

- 水源かん養*機能を持続的に発揮できる森づくりの実施
- 信号機や道路標識・道路標示の整備

介護・医療体制の充実

- 高齢者の急増に備えた在宅医療連携拠点*の機能強化と、医療と介護の連携体制の構築支援
- 急速な高齢化に対応した地域包括ケアシステム*の構築・深化に向けた支援
- サービス付き高齢者向け住宅*の整備促進など高齢者向け住まいの確保の支援
- 職業訓練による介護人材の育成
- 臨床研修医*及び後期研修医*など医師の誘導・定着策の実施
- 看護師の質的・量的な確保・養成

2. 誰もが輝く社会

子育てに希望が持てる社会の実現

- 結婚を希望する未婚者への出会いの機会の提供・結婚新生活支援及び地元自治体との連携体制の推進
- 産婦人科医確保の推進

未来を創る子供たちの育成

- 日本語指導が必要な児童生徒への支援
- 体験活動の推進（大滝げんきプラザ・長瀬げんきプラザ）

人生100年を見据えたシニア活躍の推進

- 健康長寿に取り組む地元自治体への支援
- セカンドキャリアセンター*（秩父）による高齢者の就業支援

誰もが活躍し共に生きる社会の実現

- 若者やミドル世代*などへのきめ細かな就業支援
- 女性の就業・キャリアアップのワンストップ支援

支え合い魅力あふれる地域社会の構築

- 長瀬の川下りや観光農園など地域資源を活用した観光振興や、多彩なツーリズムの促進
- 文化財の保存、活用、情報発信など文化資源を生かした地域振興（自然の博物館）
- テレワーク*など新たな働き方の普及に伴う関係人口*の創出や移住・定住の促進

3. 持続可能な成長

未来を見据えた社会基盤の創造

- 幹線道路のミッシングリンク*解消や多車線化
- 中山間地域*の生活を支える道路の整備や身近な生活道路の整備促進
- 地域鉄道の安全性向上を目指す設備整備への支援
- 生活交通を支える路線バスの維持・確保対策

豊かな自然と共生する社会の実現

- 自然公園の保全
- 農山村体験などによる都市住民との交流の拡大

稼げる力の向上

- 圏央道以北地域などへの企業誘致の推進
- 企業立地などを促進する幹線道路の整備

諸かる農林業の推進

- ぶどうやいちご、きのこなど地域の特徴を生かした生産振興の支援
- 県産木材の安定的な供給体制の整備

第3編 地域別施策内に掲載しているグラフについて

- ・割合を表示しているものは小数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがあります。
- ・各グラフの出典は以下のとおりです。

将来人口の見通し

平成27年は「国勢調査」(総務省)、令和2年以降は埼玉県推計

人口ピラミッド

埼玉県推計

人口関係データの県平均との比較

人口増加率：平成27年は「国勢調査」(総務省)、令和2年は埼玉県推計

後期高齢化率：埼玉県推計

合計特殊出生率：「埼玉県の合計特殊出生率」(埼玉県)

第1次産業総生産額(1人当たり)・第2次産業総生産額(1人当たり)・第3次産業総生産額(1人当たり)：「統計からみた埼玉縣市町村のすがた 2020」(埼玉県)を元に埼玉県推計

転入超過数(年代別)

埼玉県推計